第51回 九同教夏期講座 （佐賀大会） アンケート

全体会（不明2） 910人

| 所属 | 1保・幼・こ | 2小学校 | 3中学校 | 4義務教育 | 5高等学校 | 6特別支援 | 7大・短・専 | 8PTA | 9企業 | 10宗教団体 | 11行政 | 12運動団体 | 13その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 用紙 | 8 | 77 | 44 | 5 | 31 | 70 | 0 | 0 | 0 | 0 | 42 | 7 | 8 |
| QR | 10 | 253 | 211 | 13 | 51 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 52 | 1 | 0 |
| 合計 | 18 | 330 | 255 | 18 | 82 | 95 | 0 | 0 | 0 | 0 | 94 | 8 | 8 |

特別講座（不明2） 348人

| 所属 | 1保・幼・こ | 2小学校 | 3中学校 | 4義務教育 | 5高等学校 | 6特別支援 | 7大・短・専 | 8PTA | 9企業 | 10宗教団体 | 11行政 | 12運動団体 | 13 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 用紙 | 59 | 35 | 6 | 10 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 24 | 4 | 2 |
| QR | 1 | 110 | 42 | 7 | 12 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 24 | 0 | 2 |
| 合計 | 60 | 145 | 48 | 17 | 15 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 48 | 4 | 4 |

各分科会（QRのみ）

| 所属 | 1保・幼・こ | 2小学校 | 3中学校 | 4義務教育 | 5高等学校 | 6特別支援 | 7大・短・専 | 8PTA | 9企業 | 10宗教団体 | 11行政 | 12運動団体 | 13その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1(56) | 7 | 30 | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 1 | 1 |
| 2(151) | 2 | 89 | 31 | 4 | 8 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 1 |
| 3(35) | 0 | 14 | 12 | 1 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 4(143) | 0 | 91 | 24 | 2 | 12 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| 5(133) | 0 | 67 | 39 | 0 | 15 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| 6(121) | 1 | 33 | 27 | 1 | 14 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 34 | 0 | 1 |

講演を聴いてみたい方がいれば、ご記入ください。

・内田樹(うちだたつる)さん

・谷口仁史さん（スチューデントサポート）

・SHINGO☆西成さん

・汐見稔幸さん 和恵さん（保育）

・宮津航一さん（ふるさと元気子ども食堂代表）

・星山麻木さん（星と虹色なこどもたち）

・藤原里美さん（チャイルドフッド・ラボ代表理事）

・松原里美さん（保育コミュニケーション協会代表）

・富田富士也さん（子ども家庭教育フォーラム代表）

・吉松郁美さん（ミスインターナショナル世界大会優勝2012）鳥栖市出身

・松尾綺子さん（ミスインターナショナル日本代表2022）唐津市出身

・ユニバーサルデザインに関わるデザイナー

・ウェルネス大会、子どもの自尊感情に関する講演した方

・サヘル・ローズさん、武田鉄矢さん、さだまさしさん、内村光良さん、東国原英雄さん、二階堂ふみさん、恵俊彰さん、石丸謙二郎さん（タレント）

## 全体会オープニング・開会行事・記念講演

### ○保・幼・こども園

・初めて池田先生のお話を拝聴しました。ご自身の生い立ちや、子ども時代の 頃の心情面から、保育園の子どもたちの姿と重ね合わせながら、一人一人の育ちの 背景を知ること、疑問に思うことがいかに大切か、考えさせられました。これまで、自分がどのように捉えていたのか？何故気づかなかったか？意識しないと、子どもの気持ちは理解できないことも痛感しました。人権保育を進めるにあたり、今日のことを振り返り、さらに学びながら 取り組みたいと思います。

・関係機関のつながりを知る事ができたスライドを使用しない講演は久しぶりだったので、資料をおき、先生の顔を見ながら話を聞いた。

・「平和の旅へ」合唱団の歌から渡辺千恵子さんの気持ちの変化や世界平和を願う気持ちがひしひしと伝わってきて、胸が熱くなりました。

・学校の子ども達の現状を聞きながら、未就学の子供達を預かる身として、その年齢に合ったことを伝えられてるかと考えさせられました。差別とは地域の中だけで無く、これから社会に出ていく子ども達が今から考えていけるよう、小さなことから伝えていけたらと思う

### ○小学校

・戦争がいかに恐ろしく、平和がいかに尊いものかということが、合唱と朗読によって、とても心に響きました。平和を守ることは、人ごとではないのだと感じるオープニングでした。

・仲間づくり ・集団づくり・おしゃべりを頭の中に入れて子どもと接していきたと思いました。

・お話がおもしろくあっという間でした。池田さんの話を聞いて、自分のクラスの 子どもの顔が浮かびました。いろいろな 自分の子どもの顔も浮かびました。子どもは当然人間です。当たり前ですが自分自身 そのことを尊重できていないことがあったなあと、見つめ直す時間にもなりました。子どもたちの前に立つ自分自身の 人権感覚を磨いたり正したりし続ることが本当に大切だと改めて思いました。本日はありがとうございました。

・多様性という言葉の解釈やこどもたちの価値観や前提が私たちとは異なることを考えたうえで人権同和教育をはじめ、教育をしていかなければならないと感じました。

・自分の人権意識を問い直すようなお話でした。忘れ物、助け合うということを教員が壊さないように 自分の感覚をみがいていかなければと思いました。

・池田先生の講演の中で すべての子どもは、自分の意見をいっているからそれを大人がしっかり受けとめること。自分達で自分で決めていくというプロセスが大切である、まちがったらやりなおせばよい結果にたどりつくまで これをどうやって学校で経験させるかの大切さを実感した。現在学校で「自分で考え、自分で決めて自分で」ということも 大切にしているので、心にとめて実践したい 。子どもがどんな存在であるか→先生の実体験の計算より→とてもよかった

子どもの「なぜ…なのか」を考え、その背景をみないと答えはでないこと、これからの現場でも大切だと思った。

・仲間づくりの定義で、「みんなで仲良くする」のではなく、嫌いな人はいてもいいけど、たとえ嫌いな人であっても、自由や権利が奪われているのであれば、「おかしい」と声をみんなでだすことという考えが勉強になりました。

・児童に「教育」と称して強制してきたことが、見方を変えれば児童を支配していると捉えることもできると知り、今後の児童との関わりについて改めて考えるきっかけになりました。教員がよかれと思って全ての場を準備するのではなく、児童が物事を自分事として捉え、意見表明ができるような場をつくっていくことの方が大切であると知ることができました。児童を子どもだというフィルターで捉えるのではなく、一人の人間として対等に接する意識を持つことが大切だと感じました。二学期からは、児童の見方を変えていきたいと思います。

・「困っていないと深く考えない…」「そんなこと考えたこともなかった…」考えたこともなかったことを よく考えてみることが人権教育のスタート なのかなと思いました。

・オープニングの「平和の旅へ」の合員団から、心が動かされました。何度も平和についての講演をきいたり、学習したりしていても、やっぱり、考えさせられます。とてもいいオープニングだと思います。

「なんで?」「なぜ?」と問いをもって、子どもを見ることの大切さを知りました。理由を考えれば、もっと子どものまわりの環境も見える思いました。

・人権教育について自分たち(教える、伝える側)が理解しているだけになっていないか振り返る必要があると感じました。人権について、児童にもわかる形で繰り返し学習し、考える時間を作っていきたいと思います。

・自分が思う「普通」や「便利」について改めて考える機会となりました。多様性の尊重については、私も「何でも許す、認める」ことが正解なのか疑問に思っていました。尊重という言葉を使っているにも関わらず、無関心になっている状況に違和感を感じていたため、大変納得しました。また、終わりにでお話していただいた、子供の生活背景を理解する 3 点にも納得しました。学級経営に取り入れていき、少しずつ人権感覚を養っていきたいと考えます。

・池田先生の優しさがにじみ出てくる講話でした。ありがとうございました。子ども像については、耳が痛いことが多く、自分の考える子どもを 改めて考え直すきっかけになりました。

学校は刑務所…。子どもの権利を失う場所だから「権利」について常に考えさせるべきということが印象に残りました。最後の 「3 つのり」を通して人権意識を高めたいと思いました。

・池田先生の話を聴いて、自分も勝手な子どものイメージを持っていたことに気付かされました。他にもマジョリティーにのっかって物事を見ていることに気付かされ、今後のものやことの見方、考え方が大きく変わりました。子どもとの関わりでは、子どもの意見を大切にすること、子どもにも、当事者意識をもたせるこ

と、子どもの背景を知ることなど、大切にしたいことが見つかりました。
今後、子どもの主体性や当事者意識を高め、自分の世界を広げ、楽しんでいけるような、支援や関わりをしていきたいです。
△大きな会だったので仕方がないのかも しれませんが、駐車場はもう少しどうにか ならなかったのかなと思いました。暑い中駐車場係をされていた方 離れたところから歩かれた方、体調は 大丈夫だったかなと思いました。
△残り 10 分くらいで、退出する人が多く、先生に失礼だと感じた。
△「自分事として考える」という言葉に何かモヤモヤしたものを感じました。「自分事」で、自分だけでよいのでしょうかと思いました。

## ○中学校

・戦後 80 年、長崎県では 8 月 9 日は登校日で平和について学習をします。もっともっとさまざまな場所で平和を考える機会が広がっていくといいなと思いました。
・このような活動があること自体初めて知りました。各節目で自らが関わる学校に講演依頼ができればいいなと思う。戦争を語り、歴史でしか知り得ない我々だからこそこのような活動に触れ、平和について考えるべきだと思う。
・実体験に基づく話は参考になりました。主体性を尊重していく中で、私たちが高い人権意識をもつことが大切である改めて感じました。ありがとうございました。
・今の学生の様子も教えて頂きましたが、まさに今の若い人々 は礼儀や知識も不十分な所があり、困っています 。人として大切なことは「人を大切にするために、かかわりの中で 感謝の言葉「ありがとうございます。この言葉も言えない若者。多いように思えます。今は平和な時代になりすぎて、人権の意識 も薄くなっている感があります。しっかりと人権教育をしていく必要性のあると改めて感じました。何も考えずに生活することはできるが、何事も考えながら生活していかないと自分事として考える力が身に付かない。思い込みはとても危険、あらゆる場合を想定して考えておくことが大事。
・池田先生の実体験を交えた講演から、緑地と宅地の違いなど今まで気づかなかった偏見や差別について気づかされました。私自身も知らないうちに差別者にならないよう注意しなければと思います。また、池田先生と大学生の認識の違いなどの例から、中学生と大人（私）では同じ事実でも認識が違うかもしれないということを考慮して指導しなければと思いました。
・自分事というマジックワードを砕き、それをどういう問いに変えていくかが人権教育が機能していくためには必要だと考えた。池田先生が、授業レベルでの「自分で決める」を、どのように考えていらっしゃるのか気になりました。
△会場の席が足らず、床に座っている人がいた。一で席だけとって戻ってこない人や終止寝ている人

もいた。本当に聞きたい人が聞けるように、会場のキャパに応じて 入る人をしぼった方がよいのではないでしょうか

〇義務教育学校

・合唱団・さがの講演は歌と朗読で平和を強く訴える素晴らしいものだった。

・はじめ聞きました。長く続く活動であってほしいと思いました。

・大学生の現在から今の子どもたちの人権意識に対する感覚を知れた。

・池田教授の話には、確かにと思うことがたくさんありました。自分の当たり前と思っていることが、他の人の当たり前ではないこと。それぞれに違うことを意識しながら、その中でしっかりそれぞれが自分の考えや思いを伝えあって、折り合いをつけていくことが大切だと思いました。

・実体験を交えた話で、様々な角度から人権教育を考える機会となった。日常にある出来事から子どもたちと一緒に学んでいけるような教育ができたらと思う。

・学校現場において、「こどもの人権」は守られているのか、と常々考えてきました。こどもを叱る時、指示する時、教職員はこどもを一人の人間として尊重しているのか。本当に尊重しているならば、そんな言葉は出ないのではないかと。今日の池田さんのお話で、その疑問を確信に変えていただきました。改めてこども基本法の周知を中心に、こどもの人権尊重を訴えていきます。

・子どもの権利について学校が構造的に抱える問題について、列挙していただいたことで、学校で働くうちにうやむやになっていた事を意識しなければと思い直すことができました。少しでも当たり前だと思う人が少なくなるようにしたいです。

△来賓を一人ずつ紹介する開会は権威主義的で必要性を感じなかった。

〇高等学校

・オープニングは良かったと思います。無知のため渡辺さんを存じ上げませんが、このような手段で伝えるのも有益だと感じました。

・合唱と語りはイメージが湧いて良かったです。また、挨拶もなるほどと思う所があり良かったです

・池田教授のお話の中で、「子どものイメージを変える」という言葉が出ていて、どういうことなのか、と思っていたが、島をイメージすると大きなはばたく鳥を 想像(イメージ)するように、「駅に集まった子どもを想像してみてください」と 言われた時に、確かに、車イスの子どもや障がいを持った子どもをイメージ しなかったなと反省しました。 誰のための権利なのか、子どもたちが起こすアクションは なぜなのか、広く考えられるようになりたいと感じた。

・池田さんの話にメモをとりながら聞きいっていました。 子ども権利に視点を置いていく大切さをあらためて 感じた次第です。 幼少期のお話、とくにお父様のお話では涙が出そうになりました。 ありがとうございました。

・多様性について、考えさせられる講演でした。また、マイノリティであることに不満に思ったことがないことへの恐ろしさを感じました。
・本日の記念講演は、100 分があっという間に感じられました。教員として、30 年近く人権教育に携わってきましたが、自分がいかに 型にはまった、とらわれた状況で考えていたかに気づかされました。先生のお話で、日常の中でいろいろなことに対しての気づきが あまりました。疑問に思うこと、なぜか、と問うことの大切さを これからの生活でもちつづけたいと思いました。貴重な学びの場ありがとうございました。
・学生の意識の変化は、現在のちょっとしたことでも叩かれるミスが許せない社会環境が、学校教育にも影響を与えていると思います。
・久しぶりにとても有意義な公演を拝見しました。身近な具体例が多く、とても「自分ごと」として聞きやすかったです。
△ 特に来賓あいさつをきく中で、人権が具体的なものであるにもかかわらず理念や、やさしさ、ぬくもりで語ろうとしてるところに無理解を感じとってしまう。しかし、講演で上記の件を、ぴしゃりと言ってくれた。
△オープニングは無くても良い。

〇特別支援学校等

・オープニングは物語風で歌もあり、情景が思い浮かびやすかった。
・今回のオープニングの合唱と語りを見て、平和な未来を築いていくためには、今を生きる私たちの決意や行動が重要であることを感じました。
・「平和の旅へ」合唱団・さがの皆様の合唱と語りを聴いて、戦争を知らない年代の私が「戦争」に触れる貴重な機会を与えてもらえ、有り難かったです。ありがとうございました。

〇行政

・「平和の旅」では、終戦、長崎や広島への原爆投下から 80 年ということもあり、改めて戦争のない世界に向けて何をすべきか考える必要があると感じた。渡辺千恵子さんの想いを様々な形で繋いでいきたいと感じた。
・合唱は戦争のリアルさがあり、伝える大切さを感じた
・合唱で聴く平和のおもい。とても響きました。自分事とは改めて考えたいと思います。意見は色々で止まっていないか自分自身にも そういう所あるかなと思うので、改めていきたいです。
・人権を考える上の根幹について、今までの考えを覆されてとても面白かったです。私は教員ではありませんが、教育に関わる上で子どもへの想定や背景を考えることを大切にしていきたいと思いました。
・人権同和教育において、自分ごととして考えるとよく言われますが、自分がその立場であったらの

考えだけでなく、その立場の人から自分がどう見られていたのかを考えるということに、気付かされた講演でした。
・自分の子育てやこれまでの学校勤務で子どもに対する偏見が あったことを気づかされました。これからに生かしたいです。
・教育現場にはいませんが、日常で考えると改めてドキッとする内容でした。い い学びの機会になりました。
・仕事上、様々な人へ配りする必要があり、どのような表現をすべきか、非常に並んでおり、HSP 気味としては、仕事のスピート が捗らない一回となっている。今回の話を聞いて、ある程度割り切れとうな気がする。
・自分も大学生の息子がいるので、今の子供の考え方分かって、面白く、また怖くなった。「優しさは、人権ではない」が印象に残った。
・私自身が子どもに相対する時に、大人と同じ前提ではないことに気付かされました。確かに自分がこどものときも、いろいろ考えがあったなあ、と思い返しました。思うに、自分自身が、大人同士でも意見が違う人に対して、自分の意見を言うのが苦手なので、子どもに対しては、上からの言い方になってしまうようにおもいます。【自分も相手も大切にする関係づくり】、言葉はでてきますが、自分の課題だな、と気づきました。自分の今の生活の中で、なにか、スタートしたい。
△記念講座の 100 分は長いです 。60 分×2 本か 90 分×1 本。集中力と座席の意狭さでなかなか厳しかったです。誰を対象と考えていますか。
△基調が長かった。
△講師の方の話は勉強になりましたが、講師自身の話が、膨らみすぎてまとめまでの時間が足りなくかなり内容が簡略化されたように感じました。もう少しまとめのあたりの話を詳しく聞きたかったです。

〇運動団体

・幼少期の生活環境との経験から人権・同和教育の出会いの中で「自覚」が生まれ自分ごととしての「思慮分別」を考える過程で「反省」を繰り返しながら、今日の講演者のアイデンティティが形成されていたのでわ?と内容を認識させていただきました。今後とも池田先生のご活躍を期待しています。
・子どもは、未熟というのは、経験を重ねた大人の捉え方であって実は、大人といわれる年齢であっても未熟であり得る現実が実は、多いのではないかと思う。それは、学校生活を含めて体験が失われていることが理由ではないかと思います。作り上げられているバーチャルの世界の経験はむしろ多くあるけれど実体験がない場合は、見た目が大人であっても未熟だろうと思います。だからこそ社会人になっている人間こそが正しく人権・同和教育を学ぶことが大切だと思います。子どもの権利は大

人の自覚のためにも必要な学ぶべき内容だと教えていただきました。

〇上記以外 (自由業 行政書士 公民館など)

・池田先生ご自身がみずからを語られることから、子どもの背景、ひとの言動の向こうに あるものについて考えることができました。学校やわれわれ教育職員が、子どもをひとりの人格として、みずから選択し、行動する主体としてうけとめられるよう、これからのとりくみにつなげたいです。

・オープニングはとてもよかったです。大人からの子どもを見るときの決めつけはいけないと思った。

・冒頭はじめにで講師の方が言われた、今の若者が権利とか人権とかという視点で 生活を見たことがない例として3 つのことを挙げられていたか、非常に驚きとともに 怒りを感じた。

全く人それぞれに条件があるにもかかわらず点字ブロックが優遇されているとか 嫌なら、母国に帰ればよいといった考えが出てくることになんとかしないといけないと思いました。大変な時代になったものだと思いこれに対する教育をしっかりしていかないといけない。

・池田先生の講演は、大変興味深く認識を再認識させられた。自分の中にある差別意識があることその根底は何か？考えさせられる内容でした

・池田先生のお話は、とても共感できました。自分の立場から見てあたり前のことがあたり前でないこともある。それが人権だと気づかされた。

## 特別講座Ⅰ

### 〇保・幼・こども園

・保育所ではなかなか実践できないこともあるが、みんな違ってみんないいという考えは子どもたち一人一人をしっかり見ていくことにつながると感じた。

・子どもの居場所を作る。子どもの気持ちを受けとめる。色々なとりくみを学ぶことができた。

・子どもに原因を求める前に「今までの学校は本当にすべての子どもたちにとって通いやすり場所だったか？」という問いや今を生きている目の前の子どもが安心できるようにすぐに改善・行動することの大切さを改めて感じることができました。保育でも、「～くんが～だから」という言葉をよく聞きますが、その前にその環境について考え、大人が変わることが一人一人を大切にすることにつながると思いました。

・小原先生の話を聞いて、若い頃の教員の時の雰囲気そのままを思い出しました。友だちととんだ長縄、卒業式の日の謝恩会で振り向き笑顔で手を振ってくれたあの時の小原先生の姿を今でも覚えています。小・中・保育所と向き合う子は違えど、先生にしていただいた私の心の揺れの受け止めを今の子どもたちにしていきたいと思います。

### 〇小学校

・くす若草学校の話を聞いて、何となく特別支援の考え方に近い印象を受けました。小中 18 名の子どもたちのための学校…なかなか通常では難しい状況だと思うのですが、本当はそれほど子どもたちに愛情を注ぐ必要があるのかもしれません。不登校の状況は改善されているものの、ほとんど変わらない子どももいたことを公表しているところに、この校長先生の人柄が表れているのでしょう。秋に主題研で一人一研究授業をしますが、自分を知る→違いを楽しむ→じっくり考える→周りに伝える段階を、できる形で取り入れてみたいと思います。
・不登校という言葉でひとくくりにしてはいけない、一人一人事情は違うからそこを見なければいけないということが改めて分かりました。また、できない理由ではなくできるための方法を考えることや、笑顔で迎え笑顔で見送ること、お互いはそもそも違う、違いを楽しむことなど、前向きな言葉をたくさん教えていただきました。
・特別支援学級を担任しているので、一日の流れや授業の内容が似ているところもあった。学校にいるだけでいいという言葉は子供たちにとって励みになると思う。自身と謙虚さを大切に頑張りたい。
・本夏期講座で、「できない理由を探すだけでなく、できるための方法を考えよう」という言葉が印象に残った。児童が「できない。」「無理。」と言って活動に参加できない場面があった。児童が何に困っているのか(できない理由)を捉えた上で、「みんなと同じやり方じゃなくていいんだよ。〇〇さんのやり方で参加しよう。そのやり方を一緒に考えよう。」と声掛けをして、児童と成長したい。
・くす若草小中学校の取り組みを聞いて自分も子どもの声を聞くことができているだろうかと振り返ることができました。全てがうまくいかずとも子どもとしっかり向き合っていく姿勢を小原さんから学ぶことができました。
・自信と謙虚のバランス、笑顔で迎え、笑顔で送ると最後にまとめらましたが、学校で子どもたちにが関わる私も常に心がけなければと思いを改めて感じました。
・不登校や不登校に近いような子ども達を思い浮かべながら話を聞くことができました。自分は普通校勤務なのでくす若草小中学校さんと全く同じにはできないですが、お聞きした取り組みの中でできそうなことからその子に合った対応や言葉かけをしていき、少しずつ前に進めるように促していきたいと思いました。貴重なお話ありがとうございました。
・できるための方法を考えること、笑顔で迎え、笑顔で見送ることなど、2 学期から意識していきたいと思います。
・4 月から教員になり、働き出して不登校という言葉を耳にする機会が増えました。「不登校」という言葉を、ひとつに括らず、一人ひとりを尊重する、と言われていてみんなそれぞれ違う人間なので個人を大事に、尊重したいと私自身も感じました。子どもと関わる時、朝から帰りの時間まで笑顔で関わりたい。

・学びの多様化学校が、子どもから始まる教育をとことんしていて、そのことが「かけがえのない、まんざらでもない自分」に気づかせ、同じように大切な他者に気づかせ、差別を許さない、なくしていく人を作っていくのだと思った！すべての学校で、できることにしていきたい。
・子どもの意見表明権を中心にした学校づくり。学びの多様化学校についてはじめてお話を聞きました。不登校の子どもたちが対話を通じて自分の居場所を確認し自分や他者理解を深めて学校づくりに参加し学校で学べるようになった姿に、このような自由度が高く子どもが認められる居場所を作り上げられたことが素晴らしいと感じました。不登校が多い中真剣に考えなければならないことと思いました。
・私の子どもも小学５年生の途中から不登校になりました。親の立場からして、小原校長先生がお話しくださった、くす若草小中学校の学びの様子と小原先生をはじめとする先生方のお気持ちと子どもたちへの関わり方がとても魅力的に感じました。自己肯定感を高めることの難しさは実感しています。保護者の方や生徒さんのお手紙の中に、先生たちが楽しそうにしている姿があったから…とありました。親としても教師としても、目の前の子どもに、楽しんでいる大人の姿を見せていきたいと思いました。
・対話・自学・野遊び・探究といった学びの形も、「できない理由より、できる方法を考える」という合言葉のもと、多様で柔軟な実践が積み重ねられていることが伝わってきました。出席の増減にかかわらず、たとえ「12 日だけの登校」であっても、その時間がかけがえのないものであると受け止める姿勢に、大切な視点を学びました。
・くす若小中学校のような学校が標準システムになれば、子どもたちが分けられずに、本当に多様な学び方があってよいのだと、自分や周りの人々を肯定し合えることができて、何十年か経った時には、多様性を認め合いながら受け止めて、工夫しながら学び合える学校から、そういう社会を構築することができるのではないかと思った。

〇中学校

・以前、私の所属する学年でも不登校率が10%をこえていたことがあります。講演を聴きながら、そのときを振り返り、自分には何かできることは無かったかと考えました。過去を変えることはできませんが、考え続けることで次につながっていくと思います。よいきっかけを頂けたとありがたく思っています。
・学びの多様化学校が九州にあることを初めて知った。くす若草小中学校の取り組みは、認知能力の育成の基盤となる非認知能力を高め、生きる力を育てる素晴らしいものだと感じた。とても取り組みに興味がある。
・小原先生のお話を聞きながら、やはり自分の学校の生徒たちのことを考えていました。学校に足が向かない理由は本当に様々で、手立ても様々です。それに悩むことも多いのですが、小原先生を始め、先

生方の笑顔や温かさ、取り組みの工夫や見取りが子どもたちに「来てよかった！」「また来たい！」と思わせているのを聞き、羨ましいと同時に私もやりたい！と思いました。
・講義を通して、対話の大切さを知ることができました。現在、36 人が在籍するクラスの担任をしています。よくお話しするのは発信力が強い子で、大人しく勉強も普段の生活も困っていない子とはあまり対話ができていません。その子たちが、今のクラスを居心地の良いものと思ってくれているのかなと不安になりました。また、私の学級経営が、私が楽になるために行っていないかとも。みんなで対話をし、子どもたちの安心できるクラスを作っていければと思います。
・教育長が町の現状を把握して、即座に学びの多様化学校の設立を行われたことに感動しました。そして、設立に対応された小原さんの子どもに寄り添った学校づくりに、自分の勤務校でも少しでも採り入れるところがあれば、活かしたいと思いました。小原さんの熱意と細やかな配慮、気配りに頭が下がるばかりです。ご講演ありがとうございました。
・公立の学校でありながら、試行錯誤を重ねて柔軟な思考・発想で様々な取り組み（教育課程の編成、教室の名称変更、学校に宿泊、校名変更プロジェクトなど）を実現されているところに非常に驚きました。小原先生のお人柄には生徒のみならず教職員の方々も惹き付けられているだろうと感じました。

## 4. 義務教育学校

・今、小中一貫校に勤めておりますが、色々似ているところもあり、生徒たちと色々考えながら、生徒たちが過ごしやすい環境をつくっていきたいと思います

・できない理由を考えるのではなく、できるための方法を考えるという言葉が印象的でした。

・新しい学校づくりに実際に取り組まれた内容で実際の学校を見てみたいと感じました。また、このような学校が佐賀にも欲しいと思いました。

・子どもたちが安心できる居場所づくりに努めている小原さんの活動を聞いて、私も教員として子どもたちに、そういう風に関わっていきたいと改めて思いました。
・学びの多様化学校を創り上げることは、とても大変だと思いました。職員間が仲が良いチームワークがよい、職場のストレスは低いのがとてもいいなと感じました。
・小6から不登校になった姪っ子のことを考えながらくす若草小中学校に通えたらいいのに・・・と思いました。不登校になったことで、姪っ子の学びや居場所を見つけるのにかなりの時間を要しました。玖珠町の取組が全国に広がってほしいです。
△12時の受付は、早いように感じました。13時受付の14時始まりがいいのではないでしょうか。勤務時間や休み時間がなくなる。

〇高等学校

・「やれない理由を言うのではなくやれる方法を探そう」
非常にいい言葉だとおもいました。

・ 具体的な実践事例の話でたいへん参考になった。学びの多様化学校に通う子供たち、職員の姿がよく伝わる内容であった。

・子供達の素直な言動に心うたれました。そして私達はそのような子供達と日々接することができることに喜びを感じています。

・不登校の生徒のための校舎がある事に大変驚きました。先生方が色々と考えられて、指導されていることにも感銘を受けました。また、このような機会があれば参加させて頂きたいと思います。

・できない理由を考えるだけでなく、できるための方法を考えるということを実践し、子どものより良い学びを追求されている点がとても勉強になりました。

・とても感動しました。一人の人間を大事にすることや、集団の雰囲気づくりについて、考えさせられました。分析結果を一つの答えに(無理に)集約しない、という先生方の姿勢に、はっとさせられました。

〇特別支援学校等

・学びの多様化学校の存在を初めて知りました。１人１人と向き合い対話をしながら授業を工夫されてるのを知れました。

・玖珠町が不登校特例学校をつくられていることには驚きました。私は心理治療施設併設の特別支援学校の分校に勤めていましたが、そこにも起立性障害の疑われる子どもたちもいました。不登校になる子どもたちにもいろいろな背景があるんだろうと思います。特例校のお話しをもう少し聞きたかったです。

〇行政

・小原猛さんの新たな挑戦の道のりを聞かせていただき、ありがとうございます。
ひとくくりにしないこと。一人ひとりに笑顔を届けること、そして一人ひとりを笑顔で見送ることから始めようと思いました。伴走支援という言葉が心に残りました。

・同和問題に限らず、対話という人権教育の根っこの大切な部分を学ばせていただいたように思います

・学びの多様化学校設立の思いと、実践に関心をもちました。イエナプランに軸を置く教育課程は、色々な学校でも活用できるものと感じました。
理想的な状況だけでなく、現実の状況にも言及があり、そういったところもみんなが違うというところを体現していると感じた。

・「みんなが主役の学校」の公演を聞いて、教育長のやる気や校長の意気込みを感じた。
我が子も不登校だった過去があり、その時にこんな学校があったらと思いながら聞かせていただきました。
・自分は県庁職員で、教育委員会事務局に２年余り在籍し、夜間中学校の設置前に少しだけ関わり、不登校特例校とは異なるが、新しい学校をどのようにつくっていくか、想像することができ、話が聞けて貴重な機会でした。校名を子ども達が作っていくプロセスを重視した話は印象に残った。不登校が解決しているわけでもない現実も紹介していただき、一人一人に事情が異なることも理解しました。校長先生が毎日子どもを笑顔で迎え、笑顔で見送るという信念と行動で、子どもが安心できる学校を目指していることが素晴らしいと思いました。
・対話の大切さと、大人も子どもも居場所があることの大切さを知ることが出来ました。
・「これまでの学校がすべての子どもに通いやすい場所だったのか」という言葉が印象的でした。少人数だからこそ可能との言葉もありましたが、大人数だとしても適応できること、また家庭にも活かせることがあり、大変勉強になりました。
・小原さんの子どもたちと教職員が対話による学校の取り組み，とっても感動しました。くす若草小中学校が子どもたち，大人も含めてみんなが主役ということが感じました。どうもありがとうございました。
・学びの多様化学校での取り組みは、通常の枠組みの「学校」にあてはまる部分、あてはまらない部分はあるものの教育理念は通常の学校と何ら変わらないと思いました。家庭でも意識している「安心できる居場所」づくり。学校現場に戻った際には、何らかの形で学校で「安心できる居場所」を作れたら・・・と思います。
△椅子に座れなくて外で音漏れを聞いている状況だったので改善してほしい

〇運動団体

・小原校長先生の取り組みも心を打たれました。今年の講座は、とてもよかった。
・特別講座Ⅰ、Ⅱも学びの多い講演会でした。しっかり地元にもちかえり、頑張りたいと思いました

〇 上記以外（ 行政書士 ）

・子どもファーストの学校づくりの具体が学べました。学級づくりのポイントになるものだと感じました。このような学校が特認校だけでなく広がっていくことを期待します。
・（私の仕事上の関心ではありますが）学級づくりやそこでの教育（学び?）づくりにおいて、地域の民間人（行政職員ではなく）とどう関わり、子どもたちはもちろん地域の人たちがどう変容していったのか知りたい気持ちになりました。

特別講座Ⅱ

## ○保・幼・こども園

・一人一人がしっかりと学ばなければ、差別のばらまきになるというところに強く頷いた。これからもしっかり学んでいく必要性を感じた。

・目の前の子どもと向き合い、自分の学びにつながるあつい思いを感じました。

## ○小学校

・たくさんの笑いあり、でもたくさんのことを考えさせられる講演をありがとうございました。杉本さんのお人柄がとても素敵なことが伝わってきました。私もジューシー大好きです。

・劇団光座の話を聞いて思い出したのが、先輩の教員の中に『親子劇場』をしている方のことでした。劇をする上で感情移入する必要がありますが、自分の体験や思いを劇に込めていた気がします。その思いが、周囲にも伝わっていたのだと思います。貧しさは学力や知識の無さが生み、それを何とか変えていこうとするところに、ビクトル・ユーゴー著『レ・ミゼラブル』の‘貧困は社会の悪である’を思い出させられました。

・被差別部落出身の方のお話を聞いたのは初めてだった。これまでどこか他人事のように感じていたが、どんなことに困っていたか聞くことが出来て学びになった。貧困によって杉本さんだけでなく杉本さんのお父さん、お母さん、おじさん、おばさんと長い間困っていたんだなあと感じた。でも、差別は克服できるときいて希望になった。

・部落だけではなく、今でも様々な差別があり常に意識することが大切だと思いました。また、差別によってあきらめなければならないことがあることは、あってはならないことだと思いました。
軽妙な笑いの中に、学力保障の重要さを感じさせられました。

・自分も差別を受けたことがあり嫌な思い出として心にずっと残っていますが杉本さんのお父様のように自分のところで差別を止めるような人間なりたいと思いました。

・子どもたちが生きやすい希望がもてる社会を作っていきたいと思います。被差別部落の経験を話す勇気、その経験に負けないメンタル、子どもの背景に寄り添い、真剣に考える姿勢を学びました。

・「そこにいるだけでいい」とみんなが感じられるクラスづくりをしていきたいと思いました。

・杉本先生の話から幸せは日常の中にあるけど、隠れている。見つける力を身に付けるためには学びとつながりが必要不可欠であることが心に残りました。差別をなくすためにもできることを１つずつ行って行きたいと思います。

・杉本さんのお話を聞いて、子どもたちや保護者の方としっかり向き合って話しを聞くことが大切だと思いました。子どもたちの一人ひとりの背景を考えながら接していきたいです。

・教師の仕事をしながら、子どもたちのこと、まちのこと、社会を変えるために頑張られていることを知り、私ももっと努力しなければと思いました。劇団の公演を見たいです。ありがとうございました。
・身近な人を思い浮かべながら人権について考えました。お互いを受け入れながら、生きやすい社会を作るために自分たちに出来ることを少しずつでもしていかないといけないと思いました。
・教員ですが、少なからずこのような講演に参加出来ることに感謝をしたいなと思いました。人生が豊かになるなと日々思います。人の思いが人権に繋がる、何を持って人権なのか、改めて考えさせられました。本講演を聞いて、自分が持っている子どもたちのことを想像しました。その子たちのために全力を尽くしたいです。
・様々な生き方と考え方を知ることができました。家族を思う気持ち、地域や周りの人を思う気持ちを見習いたいです。
・杉本さんの講話に出てくる人物の姿や心が、とても私の心の中に入ってきて、終始涙が止まりませんでした。被差別部落を取り巻く環境を変えていく大切さ、互いに支え合うつながりのある人権のまちづくりの大切さを実感しました。
・被差別部落であることへの差別がやはり今もなお存在しているかを改めて知ることができた。差別をなくすために自分がどうすればよいのかを考えるきっかけとなった。話の中に出てきた人たちが今も笑顔で幸せに生活してある姿が浮かんできた。
・差別は社会の仕組みによって生まれるものであり、だからこそ学び合いやつながりを通じて変えていけるということを改めて感じました。幸せや希望は日常の中に隠れており、それを見つける力を育てることが、人権教育であり人権のまちづくりであるという言葉を忘れずにいたいと思いました。
・杉本さんのお話を伺って、今も残っている差別は学びが行き渡っていないことが原因であり、日本の歴史や文化、差別をつくった政府の仕組みと人々の偏見がどのように絡み合って、現在も課題として残っているかを学んでいかねばならないと強く思いました。人権・同和教育が地区地域によって内容にばらつきが出ないようにする義務教育の責任は大きいし、義務教育だからこそ１番大切な根っこを迷いなく支援指導できるようにしたいと思います。

〇中学校

・ 実体験からの話を聞く機会はあまりなかったので、よくわからないながらも新たな気付きを得られた機会となりました。
・講演の中で「環境が差別に向かわせる」と語られた時、10年以上前に初めて中1を担任した時のある授業を思い出しました。その授業は道徳で教材は江口いとさんの『招かれなかったお誕生会』です。授業の中で「差別はいいことか、いけないことか」とたずね手を挙げさせると、当たり前のように全員が「いけないこと」に手を挙げました。「中1のみんながいけないと分かる差別をお母さんはなぜしてしま

ったのだろう」とたずねた時、子どもたちはキョトンとした表情をしました。そこから本当の授業がはじまったように思います。考え続けること、学び続けることを改めて大事にしていきたいと思いました。
・人と人をつなぐものは「共感」であると感じる講義だった。生徒の明日をより良い日にするため、共感を発信しやすい・受信しやすい環境作りを整えたいと思う。そのために、私も講師の先生のように、相手を真っ直ぐ見つめて対話できるようになりたい。
・先生が子どもたちに真剣に向き合われることで、子どもたちの心が育っていると思いました。目の前の子どもたちに向き合う勇気をいただきました。
・軽快なトークによるアイスブレイクで、すんなりとお話に気持ちが入ることが出来ました。差別、貧困、戦争などさまざまな確度から人権侵害について改めて考えることが出来ました。子どもたちに寄り添い、その感情や成長について時に涙ぐみながら話される杉本先生に、授業以外での活動の大切さにも気付かされました。
・人権・同和教育は難しいものだと思っていましたが、今日の講座を聞いて「知ること」と「繋がることが大切なんだと気づくことができました。この講座でも今まで知らなかったことを知ることができ、いろいろな人の感想から新たな感覚を得ることができました。関わっている保護者様の中で嫌なことを言われることがあり、その人のことを嫌いになりそうなときもありました。でも、その人にも育ってきた背景とその人なりの思いがあるんだと思います。その人のことを好きになれるかはわかりませんが、今後もかかわり続けていければと思います。人との関わりを大切にし、日常の幸せを見つけていきたいです。
・町の意識を改革し、大人を動かし、常に子どもに寄り添う杉本さんの行動力と熱意に感動しました。授業や劇団など、人を動かすことや多くの人とともに自分も行動される姿が子どもたちの心や思いを動かしていくのだと、思いました。ご講演ありがとうございました。差別をなくす取り組みを自分なりに続けていきたいと思います。
・ 杉本さんのカミングアウトは、胸にささるものがありました。生まれたところの違いにより、親世代はもちろん、祖父母世代の頃より不当に差別を受けているという事実に、なんとも言えない気持ちになりました。あたりまえに就労できない理由から、貧困になり、貧困が学びの場を奪い、文字の読み書きが十分にできないことが、差別を生む、悪循環に胸が痛くなりました。
　このような出来事が、昔のことではなく、今も続いているという現実をしっかりと受け止めて、「みんなで」「差別をしない　させない　ゆるさない」姿勢と態度で、学校現場で過ごしていきたいと思いました。
　杉本さんが、涙ながらに伝えてくださった思いを受け止めたいです。わすれないと思います。

〇義務教育学校

・気になる子を中心に据えた様々な取り組みを紹介していただき、ありがとうございました。子どもたちへの接し方を考える機会になりました。
・自分の教員生活も父親としての生活も子供達に支えられているなと再認識した。

・杉本さんのお話は、家庭や学校のリアルな問題を取り上げていて、とても興味深かったです。また、時にユーモア混じりで、面白い話を聴かせていただきました。ありがとうございました。
・光座を通した人々のつながりについて知れてよかったです。温かなつながりを生むことが差別をみすごさない社会をつくることだと感じました。

## 5. 高等学校

・ 講演された講師の先生の活動と、その想いを講演の中でよく伝わった。

・関わった子どもや保護者など先生の思いがつながっていると思いました。

・感銘を受けました。ご自身のお話や取り組みについて、ありのままに話してくださり、引き込まれました。このような先生と出会える子どもたちは、どんなに幸せだろうと思います。
・部落差別について知ることができてよかったです。部落差別の実態を知らなかったためどういったことが起きていたのか詳しい内容を聞けて勉強になりました。また、学ぶことで差別をなくせるということを知り、改めて学ぶことへの重要性を知ることができた。
・なかなか他の県の先生方のお話を聞くことができないのでとても参考刺激にとなった。皆があちこちで頑張っているこの職業は改めて素晴らしいと実感できました。

## 〇特別支援学校等

・教員として生徒との向き合い方等勉強になりました。エンディングのムービー感動しました。

・部落差別の話しから、人権について深い話しが聞けて良かったです。人の温かさを感じられて感動しました。

・杉本先生のお話し、とても久しぶりにお聞きして大変よかったです。私も教師の仕事を始めたばかりの頃小国の小学校に勤めていて、杉本先生の奥様にもお世話になりました。30 年以上前のことなので覚えておられないと思いますが、奥様からきいたお話しや、阿蘇の同和教育の熱を懐かしく思い出しました。今は佐賀県民になって 30 年ですが、私も日々、目の前の子どもたちや周りの人々に対してもっとしっかり向き合っていかなければいけないなと思いました。
・ご自身の経験談を中心に親族の方の被差別部落を理由とする差別のことや部落解放のことなど、非常にわかりやすい講話だった。差別される人ではなく差別する人がかわいそうという言葉がとても印象的だった。

## 〇行政

・個人的に部落という言葉を使わなくなってだいぶ経つが、地域によってはまだ根強く差別があるということを改めて認識できた。
・色んな人からの学びがあるのだな、痛みからも学べるのだなと思いながら話を聞いた。

・杉本さんのご両親の話、実践内容、胸が熱くなるご講演でした。と同時に差別することの虚しさを感じました。
・子供達は自分たちが思っているより、よく大人のことをよく見ていると思った。
・大人も子供も一緒になって考えていることが良いと思った。
・講師の家庭での経験では、貧困や戦争の差別によるさびしさや辛さを伝えていただき、戦争から復興する時代に生きた、祖父母や伯父や伯母の話を思い返した。
後半の、子どもをほったらかさないことを原点に、教師の目線を中心として、親として、人権劇の活動の中から、子どもや親が成長していく話をいくつか紹介していただいた。講師も周りにもよい大人がいることが伝わった。講師のような温もりのある先生に子どもが出会えるよう、教育の現場があることが重要だと思う。最後にさびしさだけは忘れないという話と自分の子が喧嘩し相手の親に謝りに行くという親の出番を親にしてもらったと語った話が印象に残った。
・時折涙しながら語られる講師の思いが印象的でした。関わってくれる人の有無、その関わり方で人の認識は変わり得るということを学びました。
・杉本さんの熱い思いがしっかり伝わりました。子どもたちや保護者の顔が見える取り組み，とっても素晴らしいです。明日からの実践に元気をもらいました。
・小国は、観光で時折訪れる場所です。おいしいものに囲まれ、自然豊かな町で、過去悲しい差別があったことを悲しく思いました。生まれた場所を理由に差別する感覚がわかりませんが、自身も他のことで知らず知らずのうちに差別していることがあるかも知れないと怖くなりました。差別しない人になるためにもこれからも学びを続けようと思いました。

〇運動団体

・言葉とは、こんなにも心にひびくものなのか。今日は、久しぶりに心の中をえぐられました。杉本先生のお話をぜひ、多くの方にも聞いてほしい。もっと広く知ってもらいたい。

〇上記以外 (行政書士)

・部落差別の現実から学ばせていただきました。解放劇をとおしたメンバーやお客さんのつながりやそこでの学び合いの素晴らしさを感じました。The hard では、家族を見つめ本質を感じとり、家族との心のあたたかさを学びました。
・学級での一人ひとりの学びの様子が本当に丁寧に報告によってわかりました。先生のそうゆう学級、学年の子どもたちの「進路保障」（というか、子どもたち自らが自分のキャリアを見つけて、自らしっかり生きていこうとする・・・・みたいな意味での）の現在や先生の今のクラスの児童に願う「こうなってほしい」という担任の思いをできれば少人数の会でうかがってみたいと思いました。

【第Ⅰ分科会】

## ○保・幼・こども園

・人権のないところに保育／教育はない

・何度も勝山さんの話は聞かせていただいていますが、その度に自分の保育を振り返り、また再認識させられることがあります。やはり研修は受けていく必要性を感じます。学びは大切です。

・人権感覚は０歳から始まる、という話を聞き、人権を養うのに最も重要な時期の子供たちに関わる仕事だということを改めて感じ、自分が子供たちと関わる上での責任感を強く感じました。

・居心地のいい居場所作りということを意識して保育の環境、内容を考えていきたいと思った。

・多分化保育についての実践をともにお話を聞くことができ、自園にもいる外国籍の子、保護者に対しての関わりの参考にしていきたいと思いました。

午後の勝山さんのお話では、０歳児から人権感覚が身につくということを知り、人権に沿った丁寧な関わりを常に心がけながら保育を行っていき、一人一人が大切にされているという実感をもち安心して過ごせるよう、まずは居心地の良い環境づくりに努めていきたいと思います。

お忙しい中貴重なお話を聞かせていただき、準備を進めてくださり、ありがとうございました。

居心地の良い場所大切にしていきます！

## ○小学校

・言語の壁を超えた実践で素晴らしかったです。他の国では複数の言語を話すのが当たり前だそうです。我々日本人は基本、日本語だけだし、バカンスとかもないので外国人と関わる機会がかなり少ないです。何か、たくさん外国の人と関われるシステムを日本も作っていかないといけないのかと思いました。

・乳幼児期の人権保育（教育）の創造に向けての8つの視点が興味深く、とくに、遊びの重要性、自己選択・自己決定・自己解決について、大変参考になりました。できることから少しずつ、自分から関心をもち、教育にあたっていきたいと思いました。

・人権感覚の育成がとても大切だと感じた。その為にはまず子どもたちの教育に携わる我々教育者が人権感覚を磨く必要がある。旧態依然の教育ではいけない。

・自分の人権感覚を懐疑的な目で見直し、磨いていきたいと思う。

・自分も外国につながる子ども達の教育に小学校で関わらせてもらっているので住吉先生のご苦労がよく分かります。子ども達にとって居心地の良い環境作りが最も大切だと思います。

勝山先生のお話はとてもとても面白く、また聞きたいと感じました。ワークショップは自分も行いたいと思います。

・まずは、子どもの権利条約を読もうと思いました。子どもを差別するような発言を無意識にしてしまっている気がするので、子どもたちを１人の人間として改めて尊重しながら接していこうと思いました。
・講師の方の実践や意見交流でたくさんのことを学ぶことができた。子どものことを考え、他の教職員と協力していきたい。
・差別が生後６か月から始まるということにびっくりしました。逆に９歳までに大人から愛情をもらえたら人権感覚が身につくことも。保育士の方が 20 年先を見通して、保育に向かい合う姿に感動した。
△冊子を読上げるだけなら、意味はないと思う
△シンボルマークについて
小学校１年生への導入について、私も検討したことがありました。しかし、保育士の方々に相談をしたところ、子ども達は、自分の名前の文字を記号として認識するので、シンボルマークの必要性は低いとの意見を頂きました。これについて、どのように考えられますでしょうか。

## ○中学校

・とても勉強になりました。勝山結夢先生の話を聞いて、子どもとの関わり方をもっと生徒に合わせた関わり方をしていこうと思いました。また、保育教育では、不登校がいると大問題ということも納得しました。不登校は、中学校ではすごく問題になっていますので、一人でも多くの生徒を救いたいと思いました。保育での視点を大切に2学期以降取り組んでいきたいです。お忙しい中、運営に関わって頂いた先生方ありがとうございます。
・中学校で教員をしているが、この分科会に参加し、中学校の現場でも活かせる実践がたくさんあった。遊びの中で子供たちは学んでいくということを常に頭に置いて、子供目線の授業、指導をしていきたいと思いました。
・乳幼児期からの教育がいかに重要であるかということが、とても良くわかりました。8つの視点を地域で共有していきたいと思いました。

## ○義務教育学校

・　午後からの参加でしたが、大変勉強になりました。特別支援の担任ですが、自己肯定感を高めるためにも、一人ひとりの発達段階に応じての支援の大切さを改めて感じることができました。
　無言での伝え合うゲームですが、伝える方では、伝達手段が制限されていたのでとてもじれったく感じました。機会があれば、職員研修等で扱ってみたいと思いました。

〇高等学校

・ 高等学校教員ですが、こどもに関わること、知らないことばかりで、とても勉強になりました。しっかり持ち帰って参考にさせて頂きます。

・「子どもの最善の利益を考慮する」という言葉を常に心に留めておきたいと思います。

・高校の職員ですが、乳幼児期の教育の大切さや子どもの権利条約について話を聞けたことは非常に有意義になった。日頃の授業の改善にも取り入れるべきだと考えた。

〇行政

・直接的に子ども携わる機会はあまりないものの、教育に携わる者として、児童に負担感を与えず、子どもが来たいと思えるような学校づくりをすることの重要さを改めて学ぶ事ができた。

・乳幼児のみならず、小学生まで活かせる技術もたくさん学べる場になったのではと思います。
将来、子供ができた際の参考にもなりました。

・保育士で、今は行政の保育士の研修を主催しています。勝山さんの講義は何度もお聞きしていますが、毎回、そうだよねと、共感しています。自己決定を支えるのは、自尊感情が育っていないといけない。勉強になりました。

・多文化共生という視点からも自分自身、私生活、業務に活かせる内容であった。意識を継続していきたい。

・子どもの人権感覚は0歳から備わることを聞き改めて乳幼児期の保育の大切さにきづきました
とてもいい講演でした。

〇運動団体

・実践報告は外国にルーツを持つ子どもに対する取り組みは非常に良かったが、部落差別問題について触れられなかったことが非常に残念だった。部落解放同盟とつながりがあることを言われただけに。午後の勝山さんは、保育士や教育者に様々な課題を投げかけられて、教育が良くなっていくことに期待したい。

〇上記以外（　　）

・居心地の良さは言葉ではなく環境で教える。心に残りました。

【第2分科会】

**〇保・幼・こども園**

・部落差別を解消するためには、相手がどう思うかを考えること、日頃から物を大切にする気持ちをもつことが大切であることを再認識できた。また、歴史的な視点をしっかり押さえた上で、差別について考えていくことが大切だということを学び、職場でも研修の機会を設けたいと思った。

安心して学べる環境づくりの実践発表では、アンガーマネージメントの大切さや、You メッセージよりを I メッセージで声かけを行った方が気持ちが伝わりやすい等の具体的な関わり方について学ぶことができ、参考になった。
・神代先生、坂本先生の実践をお聞きする中でどちらも「自分こととして」考えること、相手の心に気づくきっかけを丁寧に探っているなと感じました。正しさを振りかざすのではなく、いかに寄り添い分かり合えるかを大切にしているなと思いました。相手を思い、自分を語り、対話することでの気づきが誰もが安心して過ごせる社会につながるのだと思っています。グループ討議や意見交流会も皆さんの話を聞く中でより、腑に落ち納得した感覚がありました。ありがとうございました。

## ○小学校

・お二方の実践された報告を聞いて、勉強になり、参考になった。擬似的な差別体験を取り入れた授業から考えさせたり、特別支援教育の視点からの取組を丁寧にされたりと、素晴らしい実践だと感じた。何より振り返りを繰り返し、自分たちが将来的に生きやすいようなアドバイスがなされることで、子どもたちの変容が見られ、成長を促すことができると感じた。
・神代先生の教科書無償制度を入口とした実践では、これまで自分で無償化された経緯など伝えたことがなかったので大変興味深かった。坂本先生の実践は、学校全体に話し方や特別支援的アプローチでの支援の仕方を伝えられたことが凄いと思った。
・隣の席の方との話の中で、高等学校の現状を聞くことができてよかったです。
・新たな視点での部落差別を解消するための授業の提案、子どもが安心して学校生活を送るための具体的な手立て、大変勉強になりました。ありがとうございました。
・グループ討議では、感想交流だけでなく、学級経営の悩みやクラスの児童の様子などを話すことができてよかったです。
・これまで人権同和について具体的に学んだことがなく、いまいち自分ごととして捉えられていなかったことに気づきました。無理に難しく考えず、基本に立ち返って、人は誰しも同じであり差別は許されないということを念頭に置き、子どもたちにわかりやすく伝えていければと思います。
・差別される側の体験を通してのそれぞれの思いをもたせる学び、安心して学べる環境の実践としてワークシートでの児童の感情の視覚化と整理をするなど、人権同和教育においての新たな指導の視点を知ることができた。
・坂本先生の安心できる環境づくり、SST、ふりかえりなど、実践され子どもがしっかり良い方向に変容しているところが素晴らしいと思いました。特別支援の中にも差別、区別があります。インクルーシブがうたわれ、地域の中でみんなと一緒にと言われていますが、それで幸せになる人もいれば、どうしても集団が苦手だったり、いろんな理由で個別対応がいい子どももいます。特別支援を特別視せず、当

たり前の支援、特別支援学級は必要な学習の場だということを理解してほしいです。自身の子も障害をもっていますが、通常学級ではつぶれていたと思います。
・神代先生のが実践からは、学びを自分の事にするための疑似体験を導入され、差別に気付き、被差別側と加差別側双方の苦しみを感じ、“やってみる”ことで学びに変えられたと思います。坂本先生のご実践からは、先生自身の困りや悩みが子どもを思う裏返しであることを感じ、「トラブル後のふり返り」のワークシートなど、生徒の変容をともに考える先生の器量が伺えました。そして、どちらの先生も本気であり、継続されている姿が伝わりました。明日の自分に生かします。ありがとうございました。
△今回は午前講座午後話し合いであったが、講座→話し合い→講座→話し合いのような形だともっと話しやすいように感じた。
・世界でも日本でも分断（二極化）が進む中、人権教育の重要度が増しています。だからこそ部落問題についても、障がい者をとりまく問題についても全ての教育現場で子どもたちが差別者にならないように正しく学ばせることが必要だなと今日の報告をききながら強く思いました。
△午後のようなやり方は、この大人数では意見を出しにくくあまり効果的ではないと思う。ホールに集まるのであれば、実践発表をもっと聞かせてもらった方がよい。
△児童生徒支援加配教員と特別支援学校のベテラン２人の報告であった。参加された若い先生方は、人権教育や特別支援教育を特別なスキルを要する難しい実践と捉えなかったであろうか？報告者が校内で多くの先生方と連携しながら、支援方法を共有されていることがもっと語られるとよかったと思う。
△オンラインでも参加もできるようにしてほしい。

## ○中学校

・特別支援の先生の発表は、通常学級の生徒に接する際も効果的な考え方だと思う。
・実践発表を聞いて、自分の想いをもって教材作りをされたことや支援が必要な生徒へのかかわりを学ぶことができた。知識や歴史を学ぶことも大切だが、今の子どもたちの実態を踏まえて、記憶に残る授業作りも大切だと思った。相手を思いやることが大切だと言われるが、質疑応答の質問内容や伝え方が、聞きながら少し嫌な気分になったので、子どもに教える前に、大人も相手への敬意を持って話すことが大事なのではないかと思う。
・神代先生はとても挑戦的な実践で感服しました。ともすれば心に傷が残るかもしれない取り組みですが、子ども達と神代先生との信頼関係が有ればこそです。本当にありがとうございます。坂本先生の報告ではＡ君は先生に出会う事が出来て本当に幸せだと思います。Ａ君のお母さんもそうです。現実的にはそんな出会いはなかなか難しく力ある先生を支援学級に配置できない状況もあります。

・悩ましいですが北茂安小の神代先生の実践をお聞きして、「リアルな出会いが全てではない。」本物がなくても擬似体験でもどのように問題の本質に向き合わせるのか、捉えさせ方の工夫が大切であると改めて感じた。また、坂本先生のきめ細かな指導、落ち着いたときのフィードバックを繰り返し、地道に行うというスキルトレーニングの大切も改めて感じた。午後からは、他の先生方と意見交換ができ、悩みの共有や二学期からのヒントがみえてきて、有意義な時間となりました。やれる事を全力でやるだけです。

・小学校、養護教諭の先生等、いろんな方と討論ができ充実した会に参加させていただき有難う御座いました。会場設営や運営等、佐賀の先生方お世話になりました。有難う御座いました。

〇義務教育学校

・自分ごととして主体的に考える人権学習、子どもに寄り添う、この大切さを感じました。

・二本とも素晴らしい実践でした。また、フロアからも様々な意見が出され有意義な学びとなりました。

・どちらの発表も目の前の子ども達のこと、背景を考えた実践で参考になりました。教師側が知る、学び続ける大切さを感じました。

〇高等学校

・ 神代先生は難しいテーマについて自分ごととして子どもたちに捉えてもらうために色々試行しながら真摯に取り組まれておられ、感銘をうけました。様々な捉え方もあると思いますが、多様な社会で多様性が重視される中で、子どもたちや私たち教員が自分ごととして考えていくのが大切だと感じました。

・疑似的に差別体験をさせる授業展開はとてもおもしろいと思いました

もし自分が生徒から「部落差別ってなんですか？」と聞かれたら何と答えるかなと考えさせられました

その生徒にとってははじめての部落問題との出会いだったかもしれないので、その生徒がなぜそんな疑問をもったのか、その生徒のその後の変容など気になります坂本先生はＡさんと今も関わっていて素晴らしいと思いました

・先生方の生徒への丁寧な対応を学ぶことができました。人権・同和教育についてもっと考えを深めたいと思います。

〇特別支援学校等

小学校の経験がないので、神代先生の発表で小学校での取り組みを知ることができました。また、中学校の特支学級に関心があるので、坂本先生の実践報告はとても参考になりました。実践報告が素晴らし過ぎて、少し自信がなくなりましたが、これから自分に何ができるか、何をしたいかを考えたいと思います。

・特別支援教育の視点を取り入れた中学校での実践を聞いて、坂本先生の姿勢に大変感銘を受けました。自身の取り組みを見直し、二学期からの業務に活かしたいと思います。

・生徒が安心して学べる環境づくりの実践を聞いて、ワークシートを活用した視覚的な振り返り材料の活用は大変効果的だと感じました。また、起きた現象ではなくて、その背景に目を向けることの大切さも分かりました。ありがとうございました。

・特別支援学校に勤務する中で、「部落問題」について授業をする機会というものが少ないため、大変勉強になりました。特別支援学校小学部においては、まずは「仲間外れにしない」などレベルを合わせて指導をしていきたいと思いました。

〇行政

・実践発表を聞いて、自身の知識のなさ、アップデート不足を感じました。自分が学んだ時と知識そのままで、知らない事も多いと恥ずかしくなりました。子どもたちの前で話すこともあり、自分が自分事として捉え、子どもたちに何を伝えられたのか、ととても不安になりました。今後は、もっとこれまでの歴史を学び、現代の人権と合わせながら、子どもたちが自分事として考えられるよう、自分自身も学び続けたいと思いました。

・県内外の実践を聞くことができ、とても勉強になった。午後からもいろんな方と意見交流をすることができよかった。

・私は教師ではありませんが、管理職として人を育てるという点では、大変参考になりました。ありがとうございました。

・被差別疑似体験については、とても興味を持ちました。教科書無償化の経緯や苦労を背景を子どもたちに落とし込む良い提案だと思いました。

・私は教育現場ではありませんが、発表を聞き、意見交流を行い、同和教育が小学校の時からなされている。又は特別支援学校を含む教育現場での児童、生徒に対しての指導など日頃、私が知らない事を多く学べたことが、自分の業務又は、対活動の中で役にたつ意味でも勉強になりました。

〇上記以外（　　）

・地域では、問題児に対して排他的にとらえる傾向にあるが、学校内で対応できない場合は地域への支援を声掛けを要請してる。他への影響もあり地域の問題として、関わり対応したいと考えている。今回の講演で、じっくり話しを聞く大切さを感じました。問題児が抱えている事を吐き出してもらうことができればと思います。

【第3分科会】

**〇小学校**

・学びの多い分科会と感じました。一本目は『木匡(もっきょう)』を使った年貢の授業をとても興味深く感じました。年貢の検分で『検見法』と呼ばれているものですが、木匡を使って検見する際、投げさせる被差別部落の人には、匡(はこ)に入った分が与えられる…本来は米の出来具合で決めるべきもの

を、いつの間にか損得で決めようと変質し、農民の怒りが決めさせた武士ではなく、投げさせられた被差別部落に向く…支配層への不満を巧くかわすための詐欺のような手法を、小学生でも実感できる実践です。是非、参考にしたいと思いました。二本目は、発表の切り口が参考になりそうです…講演会や実践発表では、発表される方の「生き様」が語られるものが多いのですが、私たちにそのような体験は無く、なかなか難しいものだ…と感じていました。授業づくりを通して、自分が配慮したことや工夫したこと、実践した児童(生徒)の感想など、私たちでも取り組めそうな実践でした。
こうしたことを参考にして、人権・同和教育に取り組んで行きたいと思います。ありがとうございました。
・光さんの書いた日記(もやもや)を、本人の承諾があって、学級で共有できたことがきっかけとなり、感じたことを出し合える仲間に育ち合ったのだろうなと感じた。
「交流」学級と「支援」学級担任の壁がなく共同して部落史、差別について考える学習、授業をされたことが素晴らしいなと思った。この年が特別要望されて、副担任のようにこの体制を取ることができたと仰られたので、どこの地域でもどんな学校でも、学校に行けない子でも、義務教育として学びが得られるような仕組みにしたらいいと思いました。部落問題について学ぶ必要はもちろんあると思うが、6年生になる前に自分の人権が大切にされて、他者の人権を大切にすることが当たり前にしていかねばと思う。その土台は絶えず育んでいきたい。
　さらに、分けないことが当たり前の学校が成り立つように、教育環境や教職員、各専門の教員、支援員などの配置を国や県、市町村で実現できないものだろうかとも考えた。
・部落問題について、なかなか身近に感じることができず、どこか他人事に感じてしまっていましたが、今日の講義で差別とも関係があること、部落問題について教えていかなければならないことを学びました。
差別をする側に問題があると何度もありましたが、教育者としていろいろなことを教える必要があると感じました。
・大変勉強になりました。子どもの思いに寄り添い、交流学級に居場所をつくるために、環境をととのえ、長濱先生の実践は、話を聞いていて先生が熱い思いを持って集団づくりに取り組まれているんだろうなと感じました。特にすみれ学級の立場から交流学級の子どもたちを巻き込んで仲間づくりを行われているところが印象的でした。途中で質問とご意見でありましたが、もやもや書き部落史問題学習など、様々な取り組みの中で長濱先生が実践する上で配慮されてることなどがあればもう少し詳しく伺いたかったなと感じました。
新玉先生は実践をするにあたってしっかりと地域の方にご意見を伺い、自分の体験談を交えて思いを子どもたちに伝える姿が聞いていて素敵だなと感じました。それだけセンシティブで、それでいて子どもたちがこれから大人になっていくにあたってとても大切なことなのだと改めて再認識出来ました。協議の中で子どもたちが部落の場所を質問してきたらという内容に終始していましたが、それだけ「あるか

もしれない」と色んな可能性を考えて授業を組み立てられてる先生があの会場にたくさんいたのだと考えるとそれだけで同じ時間を共有できて良かったなと思いました。
自分が児童支援加配を務めている都合上、どうしても今回の全体協議では今勤務している学校のことをお話しするのは出来ませんでしたが、皆さんの意見を聞いていて大変勉強になりました。運営いただきありがとうございました。なかまづくりのために授業をされたことは、子どもや職場の若い先生育てに繋がっています。
・司会者が最初に確認した「豊かなつながりを育む」「リアリティのある学びを創造する」いずれも「自分事で考える」につながるよいテーマだったと思います
報告も、特に1本目は、子どもがつながっていく姿がわかりましたし、部落問題と子どものリアルをむすびつけようとする意図が感じられました。
質問や意見についてですが、述べている方の中ではテーマに沿っているのだとおもいますが、聞いている者にとってはとりとめないように感じることがありました。討論では、3つ目に関する話しばかりになってしまい、やや残念に思いました。質疑討論の交通整理は難しいなーと感じました。
体験など出してもらい「自分ごとで考える」の入り口が少し見えた気がしました。ここから「豊かなつながり」「リアリティのある学び」をどう創っていくかを考え実践していきたいと思います
△長濱さんの実践がとても良かった。久しぶりに本格的な実践に学ぶことができたが、この実践を一体どれだけの参加者が理解できたのかは非常に疑問がある。そこに、佐賀の人権・同和教育の課題もあるように思う。すくに実践は難しいが、できることから始めたいと思わせていただいた。
△大会運営面での意見となりますが、一日目、座りきれない場面が発生しています。参加者数を把握はされていたとは思うのですが、収量容量を超えていたのでは…と感じました。二年前の和歌山での全国大会が同じ状況で、ホールに入り切れず、通路に座り込んで講演を聞きました。
また、会場図を大会資料に付けた方が良いと感じました…イベントホールが見当たらず、案内板の裏で見付けた次第でした…地元ではないので、あると慌てないでしょう。
昨年の九州大会に続き、二度目は落ち着いて参加できました…またお世話になるときを楽しみにしています。ありがとうございました。

## ○中学校

・最近、部落問題学習やその他の人権に関する学習をしていないことを改めて感じた。差別と闘っていないと差別をしているのと一緒だと思ってきたことが実践できていなくて、今まで出会ってきた方に申し訳ないと思いました。
・「差別する側がいるから差別が続いていく」という一貫した軸にそって議論が続き、自分も教師として人権教育の在り方を考えていきたいと思いました。

・機会あるごとに、このような研修に参加したいと強く思いました。差別と戦ってきた人たちのために、目の前の子供たちへ人権の大切さを伝えていきたいと思いました。
・本大会に初めて参加させていただきました。実践報告もですが、参加者の方々からの意見も学びとなるものが多かったです。特に部落について質問された時にどう返すか?ということを焦点にして、活発な意見交換がされていた場面では、単に返し方にこだわるのではなく、発言者の意図を聞いてみたり、なぜそのような発言に至ったのか、発言者の背景に思いを巡らせたり、授業者が自身の授業内容を省察したりと一面的な見方で判断しないことの大切さを感じました。まさにそれこそが人権的な視点であると思います。一つ見方で決めつけない姿勢をもって生活していきたいと思います。
・2つの報告と討議を通して、自分は部落差別とどのくらい真剣に向き合えているだろかと考えさせられました。午前中の報告を通して、自分の中でモヤモヤしたり考えたりしている中で午後の討議に参加しました。最初のグループ討議は、討議の柱の数もあってどの話をするのか少しバタバタした感じがあったのと、参加者の背景や考えが異なるのでどこまで話をしてよいのか迷う部分もあり、なくてもよかったのでは?と思っていました。しかし、このような大きな大会にたくさんの人が参加をしていること、そしてその人たちがそれぞれ違ったいろんな背景をもっていることを理解するためには必要だったのかな?とも思いました。自分はこれまでそのように考えることなく、自分の学びと価値観の枠の中で発言をしていたのではないかと反省させされました。分科会を組み立てた側の意図と違うかもしれませんが。
1日を通して、いろいろな方の意見や実践についての話を聴くことができ勉強になりました。しかし、報告者に対するフロアからの意見のやりとりについて、ん?これは食い違っていないか?質問の意味を報告者は理解しているのか?と思う場面がありました。(例えば、「中心にする?中核とする?子」についての捉え方など)そういった場面で、司会者の補足などがあるとよかったかもと思いました。参加者として、もし自分が報告者の立場だったらどう答えるだろうか?とか、この質問をなぜするのだろうか?と自分と重ねて考えながら参加することができました。ありがとうございました。
△1.鹿児島からの報告に対して
◯30 年以上前に、児童生徒に部落民宣言をさせる実践をよくされていたが、それと同じようにカミングアウトの強制につながりかねない危うさを感じた。多分、報告書の先生は、そうならないよう配慮されていると思うが、フロアーの聴いている中には、表面的に真似しないかと危惧する。
◯感情的に武士を悪者にする取組で終わらないようにすることが必要と思う。部落史の見直しで、近世政治起源説は否定されたが、取組はそこで止まっていると感じる。為政者は人びとの中にある差別心を利用しただけで、その差別心に踏み込む必要があるのではないかと思う。為政者のそれが良いと言うわけでなく、一面的な見方にならないようにすることが大切。国家統治で、税の徴収と警察権の行使は重要。様々なことを学ぶことが大切。

2.宮崎からの報告に対して

◯しくまれた差別、つくられた差別と言うのは、上記の近世政治起源説に囚われすぎているのではないか。人の中にある差別心をどうするかが本当の課題。

3.久留米の先生が言われたように、すべては、差別する側の問題。そして、自ら差別する側に立つ可能性があることを自覚することが大切。それは、教員も児童生徒も同じことだと思う。

部落史の見直しで、差別の本質に迫れると思っていたが、今日の議論を聞き、教員が部落史の見直しのことを忘れた？学んでいない？のではないかと感じてしまい残念だった。

差別に気付き、考え、差別を無くそうと行動するためには何が必要なのかを常に自問していきたいと思いを新たにした。

## ○義務教育学校

・それぞれの報告ありがとうございました。1 本目の報告は子どもに寄り添ったすてきな報告でした。2 本目は部落問題学習でしたが、子どもの様子をもう少し聞きたいと思いました。全体交流で 3 本目の柱の話が中心となりましたが、大人の仲間づくりの話をしたかったです。

## ○高等学校

・ グループ討議でさまざまな地域の現状が聞かれてよかった。

・大人側も学び続けることが、人権問題を考えていく上で重要なのだと改めて感じました。

今回はじめて学校外で人権同和教育の研修を，受ける機会をいただき、子どもが自分ごととして考えるためにどんな関わりをすればいいのかなどについて、実践例や他の先生方の考えを知ることができた有意義な時間でした。特に、子どもが差別されない、子どもに差別させないためにカミングアウトを受け止められる大人にならなければならないと強く思いました。そのために私自身が人権同和教育について学び続け、差別をなくすために身近なところから行動していきたいと思います。

## ○特別支援学校等

・小学校の事例発表は、普段関わりが少ない発達段階の子どもたちへの授業実践を聞けて非常に興味深かったです。

## ○行政

・人権学習を自分ごととして捉えさせるための、様々な実践が聞けて参考になりました。全体討議の中で話題になった、部落所在地に関する質問にどう返すのかの討議では、納得できる答えも得られました。

・子どもの実態を捉える感性とその実態を学習につなげる必要性を感じました。

・一本目のレポートは，報告書が支援学級の子どもたちの思いを交流学級と人権学習を通して実践した取り組みでした。自ら授業実践を行う取り組み。学年部で取り組むチームで素晴らしい取り組みな

んでした。二本目のレポートは、報告書が部落問題学習をするのに，常に部落の子がいるものと思って実践をしているという素晴らしい実践でした。どうもありがとうございました。

【第4分科会】

## ○小学校

・どちらの実践発表も大変勉強になりました。子ども、大人、どんな人も人と人との繋がりの中で安心して暮らしたり成長したりできる社会であってほしいなという思いを持ちました。今後の私自身の実践でも参考にし、取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

・実践報告を通して、子どもの育ちについて深く考えることができた。また、学校内外の支援や関係機関との連携を行い、子どもや保護者を支えていく必要があると感じました。

・子供を否定せず寄り添う気持ちコミュニティ作りに果敢に挑戦し前向きにトライする気持ちを学べました。

・ま・まんでぃの取り組みは子どもも大人も地域とつながることができる良い取り組みだと思いました。子どもが安心できる場所を作っていくために自分が正しいと思っていることが、差別に繋がっている可能性があるのではないかと考えさせられました。子どたちへ向けて「何か出来るのではないか？」と考える際に一方的な味方ではなく、多くの可能性や考え方に触れておかなければいけないなと感じました

・ま、まんでぃの取り組みについて初めて知りました。こんな地域の人と繋がる取り組みを学校でも取り入れられたらいいなぁと思いました。

・複式学級での実践や、小城での活動について聞いて、どちらも初任者の私にとってすごく新鮮ですごいと思うものでした。特に、ま・まんでいでの活動についての報告がとても興味深かったです。年代を問わず居心地が良く安心して過ごせる場所を 10 年間も継続して開いているというのが、すごいなと思いました。また、昔子供のときに来ていた子が、学生ボランティアとして関わっているという話や、保護者にとってもスキルアップの場になっているというのが、素敵だと思いました。

・学校の実践を聞いて、「この子が変わったらクラスが良くなるのになぁ…」という大人目線の思いに偏りがちだけど、「この子は何に困っているのかな」と、子どもの思いに寄り添って関わっていくことが大切だということを改めて感じました。また、ま・まんでぃの方の話を聞いて、地域にこのような場所が自然とあれば(溶け込んでいれば)、ひとりぼっちになる子どもも大人も居なくなるのかなと思いました。ま・まんでぃのような安心安全な居場所をめざして、教室づくりをしていきたいとも思いました。

・しっかりと対話をすることで子供の実態や本当の気持ちが分かると思いました。自分が見ているだけでは上手くいっていると思っても子供の考えていることをしっかりと聞き気づくことがあると思いました。また、学校の先生ではない子供たちの支援をしている方の話を聞けて、学校側からの視点と違った考

えを聞くことができてよかったです。学校だけではどうしてもできないこと、行き届かないことがたくさんあるのだと改めて感じました。
・子どもへの支援、親への支援について、学校と市民団体それぞれの立場から取組を紹介していただいて、大変勉強になった。やはり、「つながり」が大切で、人や環境とつながりを持つ勇気が必要だと痛感した。
・児童の学級の中での交流において、大人側の、この子とこの子は合わないからグループを分けよう、などの偏見によって児童同士の互いに学び合う環境を遮っている場合があることに気づいた。自分は事務職員だから教壇に立つことも無いが、業務とは関係なくとも児童生徒の悩みを聞いてあげられるような、また先生たちの悩みも聞いて支えてあげられるような事務職員になりたいと思った。
△様々な実践を知る良い機会となりました。
今回のお話を聞いて、どちらも自己決定の場が存在するなと感じました。安達さんの方では、自分でやりたいことを決めたり、どんなことをするかを決めたりすること。園城寺さんの方では、自分が参加するかしないか、自分が引っ張るか見守るか。小さな自己決定でも子供にとっては、自分が決めたという経験があることで、次への一歩に向かえると思います。 印象に残ったことは、安達さんのお話で「この子とは合わないから、一緒のグループにはしない」という偏見をもっていた。という話です。私自身、そう思って席替えを考えている部分があります。それは、偏見ではなく、子供たちが生活しやすい、勉強しやすい環境を整えていると思っていました。しかし、それは、教師側が思っているだけで子供達は、もしかしたら、みんなと仲良くしたいと思っているかもしれない。と話を聞いて思いました。仲が悪い子たちを繋げる役目は教師の仕事だと感じました。これからの、生活の仕方や教師感を変えていかないと話を聞いて感じました。
・討議の中で、九州各県の歴の長い先生方でも、同じように悩み、講和された先生方と解決策について試行錯誤されていて、聞いてるだけではありましたが、しっかり考えることが出来ました。学校以外の教育の場に関しての知識も未だ少ないので、今回の講演の後、自分の地域の支援団体を調べようと思います。
・おふたりの実践を聞いて、いろいろな学びができました。つながる視点や方法を知る事で、自分の学校、地域でやるとしたらどうかな？と考える機会ができました。参加者の気づきや意見、悩みを聞きながら、自分にできる事からやっていきたいと思います。圓城寺さんの「只々見守る」という言葉が温かく印象的でした。ありがとうございました。
・教員１年目でなんとか１学期を終えたというところでしたが、２学期に向けて実践事例等を聞くことができたことは、大変有意義だった。気づかないうちに起きている問題やクラスの課題を、しっかり認識するところからまず始めていく必要があるなと感じたとともに、失敗を恐れずに子供達と真剣に向き

合うことが重要であると改めて思えた。状況は学校やクラスによって異なるが、自分のクラスで活用できることは、導入していきたいと考えている。
・教師目線の支援と社会団体目線の支援が聞けて、とても良かったです。特に「ま。まんでぃ」の活動はとてもきめ細やかでいいなと思いました。参加できて良かったです。
△休憩時間が長く、多いと感じました。途中にあった、近くの人と話し合う時間が１番よかったです。全体での共有だと、今は何の時間か分からない時がありました。
△もう少し、話しやすい会場だったり、議題をしっかりと文字で見える形で提示していただけるとより内容が深まる会になったのではないかと思いました。1日の研修でしたが、午前中の実践発表を聞いてその際にも質疑応答があり、午後もほとんどが質疑応答の時だったので、可能なら講義の内容に合う何かしらの問題を提示してそれに対する支援や取り組みについて近くの方と話して内容を深めるなど、内容を検討して欲しかったです。
△午後からの時間、討論のテーマが曖昧に感じました　よくわからなかった
△運営の人たちの準備が全くなさすぎて、驚きました。他県の人に失礼すぎます。発表者を増やすとか、講師を呼ぶとか、専門家を入れるとかいくらでも工夫できたと思います。8:30～12:00 には余裕で終わる内容でした

・実践報告を聞き、去年の自分自身の体験を思い出しました。「生徒を責めない」「自分自身を改める」という姿勢を私自身もずっと大切にしてきました。しかし、場合によっては、その心根は自身の心身を壊してしまう危険性もあり、「自分を責めすぎないこと」が重要なマインドだと学びました。
　私は、生徒に寄り添いたい、話をしっかり聞いていきたい、という思いのまま時間を費やし、何かあったら自分のもつ原因ばかり見つめ、必要以上に自分を責め、遂には体を大きく崩しました。
　体を癒しながらの働き方で、「先生はうちの子は後回しですもんね」と、通級に通う生徒の保護者さんに言われる始末でした。
自分なりに精一杯できることをしようと体に鞭うって様々な手立てをしていたつもりだったので、とてもショックでした。卒業式で多くの生徒から嬉しい言葉を多々貰いましたが、「自分をすり減らし、全生命を使ってもがいてきた。でも、生徒全員にとっての安心安全な学級はつくることは今の私にはできなかった」と、敗北感も残りました。今回お話を聞き、安達先生がされていたように、教師側、生徒側、両面の課題を俯瞰的に見つめていく訓練をしていきたいと感じました。しかし、様々葛藤し、悩み、失敗しながらも自分なりに奮闘したからこそ、後輩の先生方の必死の奮闘に気づき、心から支えたいと思い、できることを精一杯しようとする、今の自分があるとも感じています。
「誰ひとり置き去りにしない」というのは、並大抵のことではないですが、人を責めず、自己成長への向上心を持ち続ける中で、きっと掴めるものがある、そう改めて信じたいです。
　お二人のお話を聞き、まずは自分自身を満たし、大切にして、そして、目の前の生徒一人ひとりと積

極的に関わり、対話し、諦めずに理解する努力を続けていこうと思いました。
　素晴らしいお話をしてくださり、また、こうした講座を運営してくださり、ありがとうございました。
・学校で勉強するという固定観念に囚われてはいけないなと感じた
・つながることをテーマとして、生徒や地域や学校同士の居場所づくりの実践がとても素晴らしいと感じました。また、行きたいと思う学校づくりを行い、職員も居場所づくりを意識して学校運営を行いたいと思います。とてもよい研修会でした。
・学校における子ども支援、地域からの子ども支援、色々な立場からのお話が聞けてとても勉強になりました。日々子どもたちとの関わりの中で悩みながら関わることもありますが、それ以上に子ども達から学ぶことが多く日々自分自身の成長に繋がっています。学校でできることは限られていますが、自分に余裕をもって、子供たちとも関わっていきたいです。
・安達先生の発表からは、指導支援をしながらも、教師が方向性をもちながら子どもたちに選択の場を与えることの大切さを再度感じました。圓城寺さんのママンディは本当に素晴らしい取り組みで、老若男女多くの人々の居場所がある温かい場所だと思いました。
・教員という立場、地域の団体としての立場でできることややっていくべきことがあることを感じ、子どもを支援するためには大人のつながりが必要だと感じました。今後は、１人や小さな集団で対応しようとせず、多くの人の知恵やコミュニティを駆使しながら関わって行きたいと思います。
・本日は貴重な話をありがとうございました。
同じ佐賀県でしたが、小城でこのような素晴らしい活動をされているのを知らず、この講座で知ることができたのはとても良かったです。「つながる」という、キーワードが今の私にもとても当てはまるものだと感じました。子ども達が新学期に登校してくるまで、できる事を準備して、子ども達を笑顔で迎えられるように私も充電を満タンにしておきたいと思いました。
△意見交換はふきだしくんなどを使い意見を活発に飛び交うようにすれば良いと感じた。

## 〇義務教育学校

・どちらも素晴らしい発表でした。
これから、子どもたちが、自分で決めたと思える場面が増えるように意識して、教育を続けていきたいと思いました。本日できた自分の繋がりも大切にし、頼りながらみんなが幸せになるために、自分ができることをやっていこうと前向きになることができました。ありがとうございました。
・実践報告が素晴らしかったです。小学校の足立先生の真摯な取り組み、小城市の市民団体ママンディの、あたたかな繋がりづくりに、心がほっこりしました。自分の学校でもやってみたいと思います。

## 〇高等学校

・ 大人も子どもも、支援するされるでない、対等の意識が大切

・分科会で、実際の報告を聞いたり、質疑応答をきいて今の自分の生活にいかしていけるような内容であったり、今後の自分の生活に活かせる内容ばかりでとてもためになりました。学校生活以外でもいかしていきたいと思いました。
・子供達との関わりについて、小学校中学校高校、地域と、それぞれ違う切り口で関われると学んだ
・子どもたちの学ぶ環境づくりを学校だけでなく、他の機関と協力するなど、その場での最適解を共に考えること、寄り添うことが大切であると学ぶことができました。本日のお話を今後の教育活動に活かせるようにしたいと思います。
・最初の実践報告を聞いて、私もこの生徒は〇〇だからとか、思い込みや偏見をしていないか、ハッとさせられた。子どもたちが思っていることにしっかりと耳を傾け、いい方向に導いていかなければならないと思った。次に話された事例発表は、市民の方がそれぞれ得意分野を活かして、子どもたちの居場所づくりに取り組まれていて、素晴らしい活動だと思った。核家族化、少子化が進む中、子どもたちのコミュニケーション能力が希薄になってきていると思う。子どもたちが地域の中で関わりを持つことは、将来社会人として生活していくうえで、とても大事なことだと思う。行政がこのような活動を積極的に援助し、各地で広まっていけばいいなと思った。
・第 4 分科会テーマ子ども支援◦親支援Ｉに参加した。市民団体「ま◦まんでぃ」の圓城寺代表は、ひとりぼっちにしない居場所づくりの工夫をされていることが聞けた。「対話のワークショップ」でひとつのお題（テーマ）に対して自分が思うことを自分の言葉で伝え、聞き手は意見に否定することなく、じっくり傾聴する。居場所は誰もが自由に好きなように過ごす。完全安心な対話の時間をつくり 12 才から 80 才までの方が自分を知ってもらい相手を知って認める時間をつくることは、子どもにとっても大人にとっても安全な居場所づくりになると感じ、地域のコミュニティづくりに尽力されていることが伝わった。

## 〇 特別支援学校等

・安達先生、圓城寺さんのそらぞれの実践発表を聴いて、生きていく中で「人との繋がり」の大切さ・重要性を感じました。また、自身の人権・同和教育について知識を深めていかなければいけないなと思いました。ありがとうございました。
・学校現場での子ども支援、市民活動での子育て支援(見守り支援)を事例を参考に分かりやすく学ぶことができた。自分自身も教育現場や子育てをしていく中で、色々な団体を活用しながら、子どもたちに寄り添っていきたいなと感じた。
・とてもよかったです。ありがとうございました。見つめ直し、管理職、同僚の語り合い、変容が支えになったとのこと。職員の変容について詳しくお伺いするとよかったと反省しておりましたが、校長先生のお言葉で、子どもへの言葉かけ相打ちが変わっていったということを聞き、私自身も見直し気づきを大切にしていこうと思っています。

・本日はいじめ問題への学級での取り組みや地域での居場所づくりの実践を聞くことができて良かったです。人は一人で生きていくのではなく、自分以外の誰かと生きていくものだと、改めて実感しました。誰かと繋がることは大切なことと強く思いました。まずは、自分でできる小さなことから人と繋がりを持つことを実践していきたいです。
・周りの参加者との交流の時間をもっととって欲しかった。効率できて良かった。
△今回久しぶりに人権・同和教育の夏期講座に参加して、以前より内容が優しくなったと感じました。時節？時代？なのかもしれませんが、以前は、もっと部落問題の熱がすごかった気がしました。それぞれの報告もまとまってありましたが、もしかしたら中身はもっと深いものかもしれませんが。そのせいか討議もなかなか深まらなかったような気がしました。

〇行政

・安達さん、円城寺さん、どちらも特支の子だから、困り感のある子だからと区別されずに対応されていることに感動しました。
・ま・まんでぃの活動が素晴らしいと思いました。経費面などで行政を頼られているのかなと思って聞いていましたが、補助金や助成などをあまりあてにされていなくて、人脈と人の心をしっかりつかんでおられることが効果的で、上手く長く続いているコツかなと思いました。圓城寺さん自身がま・まんでぃに満たされておられるのだなと感じました。
・社会教育施設に勤めていますが、公的施設ということで制約が多く、地域連携を難しく感じているところでした。そんな中で、ま・まんでぃさんは自主的に横のつながりを広げて、様々な分野に渡った取組をされている行動力に驚きました。やはり当事者が自主的に取り組むことが１番の課題解決につながるなと思いました。他にも、近くの人と話す中で、教員の方々の今の悩みや現状も知ることができて、行政としてはどう取り組めるか改めて考えさせられました。仕事に戻ってからも、今回いただいた視点を持ち続けられるようにしていきたいと思います。
・子ども・子育て政策に関わっている行政職員です。今、子どもまんなか、子どもの意見というものが大きなテーマとして挙がっています。子どもたちにもいろいろな思いがあり、我々大人が決めつけてしまっている場面は多々あるのだなと思います。その中で、今日の公演にあったように、関わる大人たちが子どもの声を引き出していく、大変素晴らしい理念と取り組みの報告でした。
一方で、学校現場をはじめ大人たちが子どもの声を拾い上げる余裕がない、人員や体制が十分でない面は感じます。押しつけでは現場は疲弊してしまうので、体制や仕組みづくりの課題は感じます。私も行政の立場でできることはあるか、今後模索していければと思いました。
本日は貴重な機会をありがとうございました。
・誰もが過ごしやすい空間や環境を作ることが重要だなと改めて感じました。そのような環境が作れれば、きっと子どもたちも地元が好きになるだろうなと感じました。

【第5分科会】

## ○小学校

・2つの実践報告をきいて、あらためてチームで子どもたちに寄り添うことの大切さを感じました。１人で抱え込まず、同僚の先生に相談しながら子どもたちのためになることをしていきたいと思います。
・グループ協議では、他県の方々とも交流でき、実態や課題などが話し合えてよかったです。
・実戦発表を聞かせていただき、生徒や保護者一人一人に寄り添って、諦めずに関わること。支援の方向性を学校、家庭、学校外の様々な機関が一緒に考えることが大切だと感じました。
　午後の交流会では多地区の先生方の意見を伺い、視野が広がりました。一人一人違う考え方をする人間が学校で集団生活や勉強を強いられる中で、大人も子供も不安や悩みをもったり、なじめなかったりする事は当たり前だと思います。そういう状況になった時に、誰かが見守ってくれている安心感があること、自分を責めてしまわないような自己肯定感、承認感が保たれていること、が支えになるのではないかと思いました。偏見や思い込みにとらわれず、児童や保護者、周りの先生方一人一人と分かり合う努力を続けていこうと思いました。今日はお忙しい中、企画•運営•発表ありがとうございました。自分の教育について深く考えるいい時間になりました。「私の市にも取り入れてほしい」と無いものねだりになっているなとも感じましたが、本当に子供のことを思い、変えたいと願うなら、動くのは私自身だなと思いました。私も常に子どものことを考えて行動するという想いを強く持って教育をしているという自信があったのですが、私の想いはもしかしたら押しつけになってしまっていたのではないかと考えました。まずはその子に１人の人間として寄り添うということを大切に二学期を迎えていきたいと思います。貴重な時間をありがとうございました。
・初めての参加でしたが講座を聞いたり、様々な方の意見や感想を知ったりできる機会となり、参加してみて良かったです。ここから、自分が今、子どもたちに対してどのように考えていけばいいのかを考える機会になりました。考えて準備をして取り組んだとしても、必ずできないことやうまくいかないとことがありますが、このような場で共感できたり、新しいことを知ることができたりして良かったです。
・子供の願いにに応じた指導や支援として、教室に入れないから廊下で、廊下でもできないから別室で学習するなど、「出来ないから」という思いで配慮を考えるのではなく、目の前の児童生徒がどうしたいのかを選択して取り組むことができるような対応を意識することが重要であると感じました。
子供たちの思いや願い、そして保護者の方の思いや願いを大切にしながら、関わっていきたいと思いました。
・高校の先生と意見交換することができました。
小学校と高校では親御さんとの願いに違いがあり、お子さんの思春期や考え方も違い、先生方の悩みが全く違うことを知りました。
たくさん、お子さんと信頼関係を築いたり、話しやすい関係作りをしたりすることの大切さを感じました。

そのためにも子どもたちと一緒に学校作りをすること、安心できる環境を作ることが大切だと思いました。
・子供や親の思いや願いを知るために、私ができることは、教師の鎧を脱ぐことなのではと思いました。討議の際に、地域の方から先生は先生の鎧を着ているから、と言われたという話を聞きました。これは、子どもの頃先生を頼ることができなかった理由なのかもしれないと自分自身思い出しました。
9 月から学校が始まるが、今回の報告を聞いて実践したいことがあったため、できるところから始めて行きたいと思います。
・「みこしの担ぎ手」を増やすことが必要だという話があり、まずは、その児童と関わる人間を増やすこと、情報を共有することの大切さを改めて感じました。小学校では、教科担任制と違い、どうしてもかかわる教員が限られてしまい、担任の一本になってしまうことが多いと感じます。子どもたちが何か相談したいと考えた時に思い浮かぶ顔が、教員に限らず、増えると良いなと思います。
・実際の学校現場であったことをイメージしながら聞くことができました。子どもを支援していくためには、こういう家庭だからと決めつけず、親への理解も進めていくことが大切だと感じました。また、宮若市のような学習相談員という取組がとても素敵だと思いました。
△夏休み期間に一日中必須の研修として、資料の配布にも制約をつけられながら参加する意義を見出すことが難しく、不満を感じている。内容としても 60 分あれば伝えられる（考えられる）内容であったと思う。効率を考えて欲しい。希望者のみの参加ではなぜいけないのか。ただ、暑い中会場の運営をされた方々には感謝している。

## 〇中学校

・実践例などを詳しく聞くことができてよかった。また、少人数での意見交流も活発に行うことができた。
・実践例などを詳しく聞くことができてよかった。また、少人数での意見交流も活発に行うことができた。
・今まで子供の支援について深く考えることがありませんでしたが今回の分科会でたくさんの方の意見を聞き考えを深めることが出来ました。
・私自身、担任をしている学級にも不登校の生徒が複数名います。理由もそれぞれ違って対応の仕方も変えながらやっていますが、なかなか状況が好転しないことに焦りを感じながら、今回の研修に参加させていただきました。同じような悩みを抱かれている先生方との交流を通して、参考になる点もたくさんありました。教師としての考え方を変えていかなければならないと思うことも多々ありました。
保護者の対応についても苦慮することもありますが、「子どものために」という簡単を失わずやっていきたいなと思います。

・原因を求めてしまう自分を反省しました。立ち止まっている子には、言葉にならないなにかがあって、そこを無理に引き出さず、今自分にできることはなにかを考えたいと思いました。その子にとっては、一緒に立ち止まることも必要なことなのかもしれないと思い、またこれからも頑張ろうと思います。
・学校の先生だけではなく、保護者の方とも交流をすることができました。違う目線から見ることができて新たな学びになりました。特に教育相談の場面で無限に出てくる課題に対して、たくさんの人と関わりながら取り組んでいきたいと思います。
・教師の立場から、生徒や保護者の思いや状況を決めつけてしまわないようにしたいと強く感じた。どのような状況でどのような言葉を生徒にかけるべきかをしっかり考えて関わっていきたい。
・本当に様々な学びがあった。報告者の先生のみならず、客席から発言していた先生の話の中でも、多様な実践方法があり、何が正しいというわけではなく、色々なことを試していくことで、最善なやり方が見えてくるのではないかと感じた。そして、生徒の悩みにこたえることは大変なことではあるが、生徒の苦しさに対して正面から向き合うことが重要だと感じた。
・生徒、保護者との関係を築くことがもっとも大事！がんばれ…ではなく、がんばってるね！みこしの担ぎをどのように増やしていくか？→一人一人が繋いでいけたら増えていく。こういった研修を学校集団で参加して、研修後にも語り合えるようにする。生身の人間として付き合うことがとても大事。こういったことを学びました。こういう研修を学校単位で学ぶためにも、遠方からの参加者については、学校参加でオンラインにしてはどうだろうか。今日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
△受付の向きなどを工夫されると、もう少しスムーズに行ったかなと思いました。

〇高等学校

・ 長崎明誠高校の岩坪先生の報告がたいへん印象的でした。お話をされながら時折り涙ぐまれる場面もあり、岩坪先生の生徒や保護者に寄り添うお気持ちを感じることができました。
・不登校児の親として、また現役の高校教師として参加させていただきました。非常に勉強になりました。
・岩坪先生の報告は、高校現場でまさに起こっていることであり、自分の学校に当てはめて聴くことができました。午後からの交流も色々な話を聞くことができ、皆同じような課題に直面しながらも頑張っていることを感じられ、明日への活力となりました。
・私が一番関心があり、悩んでいる「子ども、保護者支援について」報告者の実践内容が非常に参考になりました。みこしの担ぎ手を増やすことを考えると、なかなかハードルが高いなと思えましたが、一人で抱え込まないこと、周囲の協力を求めることを心掛けていきたいです。

・支援のあり方の基本的なあり方は、社会の中で生きていく力を養う支援であると思います。しかし、報告のように様々な事情があると思いますので、そうした様々な事情に即した多様なあり方も必要で、そのための制度や組織は必要だと思いました。
△入場確認で時間が押すのはもったいない　高校の取組みで教育支援の考えが先生方にまだまだ浸透していないのは大きな問題だと思う

〇特別支援学校等

・様々な実践を聞くことができ、とても貴重な時間となりました。学校に戻って先生方と共有、協議していきたいです.

・教師が同じ方向を向いて、子どもと保護者に同じ1人の人間として向き合っていきたいと思います。勇気をいただきました。

・高等学校における教育相談の実際と最前線で指揮する先生方の努力を知る機会となった。又、不登校対策として様々な関係機関との連携を通してアプローチを実践していること、大変参考になりました。

・特別支援教育コーディネーターや学習相談員としての具体的な関わりの話はとても興味深かった。また、午後の総括討論では近くの先生方と情報交換できて、とても有意義な研修になりました。

〇行政

・バトンパスではなく、「みこしのかつぎて」に。一人の力ではなく、様々な力を注いで同じ方向で協力を注ぐことの大切さ、たくさんの協力をかんじました。一人一人の力、共通認識の大切さをかんじました。ありがとうございました。

・行政職員として、また一人の親として、学校の先生方や連携する方々がどのような思いでどのように取り組まれているのかを知ることができ、大変貴重な機会になりました。ありがとうございました。

・教育の現場に関わっているかものではないですが、現在の不登校や支援学級に対する取り組みを知ることができ、今後教育の現場や児童福祉に携わった時には活かしていきたいと思います。

・長崎の先生の報告は、教師が様々な困難や問題を抱える生徒と向き合い、人間関係を築き、生徒を支え、導いていったかの実践、経験から指針のようなものを示していただき、感謝します。ある生徒のことを振り返り、涙を流す姿を見て、このような先生がいることは希望だと感じました。

福岡の先生の、38 年の教師生活後の情熱と行動力、連携力に敬意を表します。宮若市の学校に来れていない児童生徒が多いという厳しい状況ですが、ピンチがチャンスとなり、みこしの担ぎ手を増やし、モデルになる活動や取組もあるかもしれませんね。司会の天草と佐伯の先生も、うまくいかないエ

ピソードも含め、巧みな進行でして、大変お疲れ様でした。
△もう少し、教育以外の分科会もあればいいなとは思いました。

【第6分科会】

## ○保・幼・こども園

・ふれあい食堂みかづきや、神田さんのされている取り組みは、人権教育の根っこを育てる大切な取り組みだと感じました。エピソードを聞く中で、自分自身に照らし合わせて考えたり、自分なら何ができるだろうかと考えたりする機会となりました。
現在は 18 の人権課題があると認識しております。人権のまちづくりを目指す中で、ひとつひとつの課題を抱える方々を取り残さない社会になっていくよう、自分にできることからはじめたいです。
同和問題については、どこが被差別部落かを調べようとすること自体が差別である、と学びました。ですが、今日の質疑においては、「被差別部落の人は参加しているのか」との質問がありました。どちらが正解なのか、私は困惑しましたが、地区を知らずとも、誰もが社会に参加できるよう、その地に足を運び、配慮を忘れずにかかわっていくことが求められているのかな、と感じました。差別は、見ようとしなければ見えにくく、差別を受けたときに気づくことが多いと思います。もやもやしたときに、それはおかしいですよと声を上げられる人を、今後も目指していきます。

## ○小学校

・ふれあい食堂みかづきの取組は、一人一人が大切にされる多世代交流を目的として素晴らしい取組だと思う。地区出身の方から質問が出て、部落への働きかけをどのようにすれば、寄り添う形になるのか、なかなか難しいと感じた。
・現代のさまざまな人権について考えるとてもためになる、改めて教師としてどのように子どもと向き合う必要があるかについて考えさせられる講座でした。ありがとうございました。
・今までの同和教育で濁されてきた実際の差別の実態などを、経験された方々から聞けたのがよかった。近くに差別の事実がなく何がそんなに問題なのか、全くわからず、この問題に関しては「寝た子を起こすな」派だった。知らなかったら差別なんてしないから。初めてこういった差別の事実を知り、勉強になった。差別に苦しむ人とのかかわりを考えられる機会となった。
・人権同和教育の実践例について知ることができるとともに、被差別部落の方が知らないだけで身近にいて、現在も差別と戦っていることを知り、自分の差別に対する認識の甘さを実感しました。学校でも自分が知らないだけで差別が存在していると思うと心が暗くなります。差別が生む不平等性や人間関係の絡れなどに気づくとともに、自分がもし差別を受けたらどんな気持ちになるのかというような視点を子ども達の日頃の生活のうちから問いかけていきたいと思います。また、自分自身も人権や差別について学び続けて行く必要があると強く感じました。

・部落問題を実際に体験された方の体験をお聞きすることができました。差別はされる側ではなく、する側が 100%悪いことを再認識しました。誰も幸せにならない行為だと思います。改めて教育現場で主に、差別根絶に向けて教職員で理解を図っていきたいと思います。
・特に後半の神田先生の話には、とても感銘を受けました。小学校のときの辛い経験をバネに、今みでたくさんの生徒や、親子、地域の方々など、たくさんの方々を救ってこられたのだろうと思います。「あのときの自分を救ってあげたい」という涙ながらにお話をされた姿が印象的でした。わたしにも、辛い経験がこれまでにありましたが、果たして、どこまでそんな自分に寄り添ってあげられたのだろうかと、自分自身を振り返るきっかけにもなりました。どの方にも辛い経験はあるかと思いますが、それを変えるのは自分が行動していくしかないですね。神田先生のその行動が弱者の方にも多大なる影響を与えたこととおもいます。わたしもたくさんの勇気を頂きました。本当にありがとうございました。
・今日は初めて参加したのですが、貴重な体験談を聞くことができました。今日の実践報告や意見・発言を聞いて、教科書の中だけでなく、差別が実際に身近に存在するということや差別を受けている人の苦しみを実感することができました。また、私を含め子どもたちなどの若い世代は、マイノリティの方たちが人権を侵害されていることに無関心であることを自覚しました。道徳の授業などでこれから、差別の歴史や厳しさを子どもたちに伝えていくだけでなく、これからの社会や将来に希望が持てるようなSDGs の考え方やボランティアの方々などの人の温かさを一緒に伝えていくことで、差別の解消につなげていきたいです。
・ふれあい食堂みかづきの方々の報告の中で、「思い込みや決めつけをなくす」「自分も相手も大切に」という言葉を聞き、どの世代でも当てはまる人権を守る大切な合言葉だと感じました。神田先生の報告は、2 学期のことを考えると少し憂鬱になっていた自分に喝を入れてくださいました。まずは自分が楽しむ!そんな学級経営をしていきたいです。ありがとうございました。
△午前中の二つの講演と午後の意見交換会で様々なことを知ることができました。ただ、1 日の研修にする必要はないと感じました。九州大会といえども、午前中だけで収束することができると感じました。せっかくのお話も聞く側からしたら内容が入ってこなくなったのも事実です。もう少し時間を短くして、他の業務に時間を使えるようにしていただけると、より人権に対する知識も増え、また業務改善にもつながると感じております。
講演に関してお話ししていただいたことはとても勉強になりましたが、人権の範囲が広すぎて目的を失っていたように感じます。
大前提として、私自身がもっと勉強し、知識を吸収していかなければいけないと思っておりながら、意見を述べます。
実際、この研修に関わらず人権・同和教育のことについてはとても難しいと感じています。もちろん差別はあってはならないことですが、こういう意見を述べる場において、差別問題について触れなかったら

触れるように言われ、触れたら触れたでその言葉は使わないようにしてほしいなど非常に難しい中で、意見交換会は難しいと思います。もう少しやり方を考えて初任、若い人でも、ベテランの人でもどうすればこの差別問題に関わっていったらいいのかを考える時間が欲しいです。差別をするつもりはございませんが、何が差別になるのかをはっきり学ぶことができ、少しでも気軽に話を聞ける場を設定してほしいです。今の学校現場・行政の雰囲気だと人権・同和教育の知識について聞こうと思っても聞けません。怒られそうだから。絶対に差別が許されないからこそもっと物腰柔らかく研修をしていただけると助かります。と言いながらも、もっと勉強します。それを感じた研修でした。運営お疲れ様でした。
△実践内容は素晴らしかった。質疑が部落差別に偏っていたが、実戦の意図はそこではなかったので、聞き手が発表者の思いを受け止めることが必要。午後の部の工夫が必要。例えば、午前中に挙手できなかった質問を昼休み中にアンケートで集め、午後はそれを元に協議するなどすれば、多くの意見を吸い上げることができるのでは。
△今回 2 日目の第 6 文化会に参加させていただきましたが、日程の組み方について疑問を持ちました。内容としては、2 つの実践報告と意見交流が主だったと思うのですが、90 分の 2 コマ程度の時間で充分だったのではないかと思います。
午後の研修は意見交換ということで時間を取られていましたが、今後の教育活動の糧になるような話題が特になく、無理に午後まで引き延ばして行う必要はなかったのかなと思います。午後まで行うということであれば、実践報告を午後にも 2 本行う(中ホールの実践報告を午後に大ホールで)ということであれば有意義な時間になったのではないかと思いました。

〇中学校

・2 つの実践報告を聴いて、人と人とのつながりを広げていくことの大切さを痛感しました。私が住んでいる地域も少子高齢化と過疎化が進んでいます。「誰一人取り残さない」ことを肝に銘じて、地域での活動に協力していきたいと思います。
・〈ふれあい食堂みかづき〉
・高齢者、子どもとのふれあいの場の提供→双方への刺激となり〇
・被差別部落の出身者も気ままに参加できる風土づくりがこれからの展望
・高齢者は新しい考えや価値観、子どもは先人の知識や歴史について学べるので、Win-Win な関係
・双方が役割をもって頑張る→やりがい、生きがい、良い意味での責任感
・高齢者の困り事を「自分事」としてとらえる契機
・ゆくゆくは全県下に活動の輪が広がっていくとよい(今回の活動を起点に)
〈子どもの育ちを保障する人権のまちづくりと、SDGs～すべての人が自分らしく輝く世界へ～〉
・常に自分を見直す姿勢に尊敬の念を抱いた
・「とにかく行ってやってみる、人とつながる」というバイタリティー◎

・「誰も取り残さない」という SDGs の理念に神田さんの人権教育の核(芯)があると思う
・自分が楽しくなければ、子どもも楽しくない→授業づくりの観点としてとても大切
・「育休」ではなく「育動」→権利をしっかり行使しつつも、努力を怠らず社会貢献をする姿勢の素晴らしさ(自ら新しい知らない世界に飛び込んでいけるポジティブさ)
箇条書きになり申し訳ありません。
人権同和教育についての実践発表から、これらの問題、課題、展望等について深く考える契機となりました。ありがとうございました。
・被差別部落出身の方々が部落差別に絡めて質問や話をされている姿から、部落差別をなくそうと必死に活動されているのだろうと感じました。普段の生活で、部落差別を感じた経験がなかったので、勉強になりました。講話の内容に関しても、私も実際に様々な経験をすることであったり、人と関わることが大切だと考えているので、共感できる部分が多かったです。自分は教員をしているので、子どもたちにもたくさんの経験をさせてあげたい、経験の中で人権について考えさせたいと思いました。
・2 つの討議を聞き、被差別地域を含めた老若男女の人達の居場所作りのために活動されていて、素晴らしいと感じた。
子ども食堂という名目だが、人との関わりの場を設けてくださるのは、コロナ禍を経て人との隔たりが開いた今とても必要としている人たちの拠り所にもなるのではないかと感じた。
また、まだまだ部落差別が根強い地域では、そのような活動への参加は厳しいと思うが、経験談などを聞く機会は同和教育に対して無知な私たちにとっていい機会になると思った。
今回、沢山の経験談を聞き、苦しくなりました。時代が作った差別、何もしていないのに差別されることは決してあってはならないと強く感じた一日でした。今後もその立場を確固とした姿勢を持ち生活していきます。
・大変素晴らしい取り組みを知ることができました。我が家にも聴覚障がいの息子がいます。15年間、よい母親ではなかったけれど、自分なりに精一杯向き合ってきました。目の前の生徒にも、この年齢になってようやく、昔よりはマシな向き合いかたができるようになった気がする未熟者です。改めて、みんなが住みよい世界について考えることのできる会でした。ありがとうございました。
・ふれあい食堂の方達も、神田先生の活動も、共通して周りの人や助けの必要な人に思いを寄せて活動されており、発表を聞いて心が温かくなりました。神田先生が少し触れられていましたがこの延長線上に、平和というものはあるということも感じました。
また、同和のことについては自分でもなかなか知識がないと思っていますが、意見交換や質疑応答のなかで当事者の方のお話を聞けたことは、学びになりました。
△討議の時間が長いです

△午後の部は不要だったと思います。意見交換にしてもこのようなアンケートでの感想や意見を後で共有する形で良いのではないかと思いました。

〇義務教育学校

・様々な立場の方が、参加されていて、差別に対する視点が異なり、難しかったです。

〇高等学校

・ 今回の活動報告を拝見し、胸が熱くなりました。ふれあい食堂みかづき は「子ども食堂」という枠を越え、世代をまたいでつながる多世代食堂として、高齢者を中心に据えている点に強い感銘を受けました。私は子育ての初期に孤独を感じた経験があり、もし地域にこのような“つながる場”があったなら、きっと参加していたと思います。だからこそ、何もないところから始め、0を1にした勇気と行動力に、心から敬意を表します。

報告の中で、部落の方から厳しい質問がありました。「誰が部落で、どのくらい参加しているのか」と問われること自体、この活動が真剣に受け止められている証だとも感じました。しかし一方で、本当に誰が部落で誰がそうでないかを明確にする必要があるのだろうかとも思います。私は教員になってから部落のことを学び直し、母に尋ねたとき「実は幼なじみがその地区の子だよ」と言われました。でも、その瞬間に感じたのは「何も変わらない」ということでした。彼女は5歳からの友人であり、今も母親同士として連絡を取り合っています。関係は一切変わらず、そこにあるのは「人と人」としての信頼だけでした。

だからこそ、みかづき食堂の事務局の女性の質疑応答野中にあった「私は部落の子を産んだんじゃない、命を産んだんです」という言葉に深く共感します。人を特別なカテゴリーに分けて扱う必要があるのでしょうか。ただ一つの命として尊重すべきなのではないでしょうか。特別視こそが分断の芽を残してしまう。大切なのは出自ではなく、どう生き、どう関わり合っているかなのだと、強く感じています。

私は今、3 歳と 5 歳の子どもを育てています。親は遠方に住んでいたり病気であったりして頼れません。そんな中でも、年配の方と話すと不思議と安心する自分がいます。一方で、公園によく来るおじいちゃんが子どもと遊びたがってくれるのですが、悲しいことに今の世の中では「不審者ではないか」と身構えてしまうのも事実です。だからこそ、この食堂のように安心して世代を超えて交流できる場があることが、どれほど貴重でありがたいかを痛感します。年配の方から学びたいことがたくさんあります。料理、生け花、着物の着付け、昔の話、戦争の話、人生の話、、、。

この取り組みにはまだまだ大きな伸び代があります。分断が語られやすい今の時代にこそ、こうした活動が地域に小さくても確かな“橋”をかけているのだと思います。厳しい質問や視線は、関心の裏返しであり、前進の材料にもなるはずです。どうか怯まずに、丁寧にアップデートを重ねていってください。今日の一歩が、明日の安心と信頼につながるはずです。

――同じ大分県出身、30 代の一人として。私も何かをしたい、そう強く思わせていただきました。心からエールを送ります。
・過去に参加したことがありました。過去の会では、「寝た子を起こすな」というタイトルでの講演でした。その方は、知らない人に同和差別地区をわざわざ教えたり、教えたりできるサイトを作ってはいけないという考えの方の講演だったと思います。
今回の質疑応答では、正直少しヒヤッとしました。まだ部落差別があったと知らないようなこどもがいるイベントでも部落差別の事に触れてあるのかと聞こえたからです。まだまだ現に残っているのは事実だと思います、だから、このような場で質疑されたのだと思います。過去は消す事ができません。だからこそ、そのことと向き合う時間が必要だと思います。その向き合い方を探究していかなければと思います。
行政（市町県など）は色んな職種、学歴の方がたくさん存在するので、あまり差別的な感覚を感じたことはありません。学校は、教諭で構成されてて、皆大卒以上です。とても閉鎖的で差別的だと感じます。本当に「平等」という刀を振り回している人が多いと感じます。何を持って「平等」は成り立つのでしょうか。生命あるもの、性別を持って生まれます。その時点で雌雄の差別が決定しています。所感ですが、私たちは、自己に都合よく物事を部分的に切取り、「差別」を作り出すし、「同調」しているのではないでしょうか。この「同調」が最もややこしいものなのでは。現に、日本の文化であって、教育の根本だからです。他者を認める文化や人と違う事が素晴らしい事なんだと受け入れる教育にならないと差別は解消されない。まずは、教育者、つまり教諭が変わらないと何も変わらないのではないかと感じる。
・実際に行われているまちづくりについて全体的に良くしていこうと様々な案が出ていて良かったと思います。
・身近な事例で実践の様子と苦労がよく分かりました。最初の事例で担当の方がご高齢であり、若い人がどのくらいスタッフとして運営されているのか、少し気になりました。
・二本の発表ともに、素晴らしかったです。ただし、このような取り組みはややもすると、取り組まれている方の個の力に拠るところが大きいため、次の世代の方への継承が必要になると思います。人づくりの大切さもまた、人権のまちづくりに繋がっていくことを改めて認識でき、大変有意義でした。
△一本目のレポートに対する質疑について、論点がずれていると感じた。
司会者に交通整理をしていただきたかった。

〇特別支援学校等

・人権のまちづくりの題に合った、素晴らしい発表だったと思います。企画運営の皆様も、表には見えない大変なお仕事ありがとうございました。
実践報告をしてくださった方々に対して、一部の質問者が、人権同和教育の文字だけ切り取ったような、質問をされていて、とても嫌な気持ちになりました。

実践報告の中身ではなく、人権同和教育についての見識があるかどうか、活動の中で部落の方々が参加しているのかどうか、していないなら、参加できるような施策をすべき、というような、直接同和教育に関わっていないと言いたげな質問をされていたように感じました。
実践報告はどれも、人と人のつながりを大事にされており、人権・同和教育の根幹である人を大事にされている素晴らしい活動だったと思います。
登壇された方々が自信を持って今後も活動を続けていただければと思います。
・人権のまちづくりを実践されている大分県の「ふれあい食堂みかづき」と熊本県での神田さんの2つの事例を通して、様々な課題を包括するような取り組みだと感じた。このような取り組みは日本各地、佐賀県内でも多く実践されていると思われ、そのような取り組みが大きなネットワークを形成していくことで今大会のテーマとする課題の解決にもつながっていくものであろう。

〇PTA 会員

△相変わらず、学校教育の人権学習イコール同和であることや、マジョリティ側（差別をしないように学習して気づきましょう）という状況が何十年間も変わらないことに違和感があります。外国人労働者との軋轢や男女不平等（例えば校長やPTA会長はほぼ男性）、日本人はアメリカやヨーロッパではアジア人としてあからさまな差別を受ける側、など、もっと話を広げ、自分ごととして考えやすくすればいいのにと思いました。学校は変わらないので何か変わると思っていませんが、変わってほしいです。

〇行政

・神田先生の考え方や取組み、バイタリティに非常に刺激を受けました。ありがとうございました。
・2 つの分科会自分の生い立ちも重ねて勉強になった。ただ今は行政マンとして自分はどう推進すべきか関与すれば良いのかお尋ねできなかった。神田さんとは幼少期似た経験したけど途中から逆の人生になったもので出会いの大事さも感じた。
・誰一人として孤立させない、人、社会との繋がりをもち個人を尊重していくことが差別を少なくする方法の一つであると感じた
・報告者は部落差別に関わらず多様な方をつなぐ、生きがいをつくる活動をされており、希望を感じるものだった。論議では部落差別を受けた経験等多くの話を聞くことができた。あらゆる差別をなくすために、史実を誠実に学び、我々の差別性から目を背けず、繰り返し自らの言動について問い続けいきたい。
・1 つ目の報告では、地域住民のつながりの大切さ、居場所作りの大切さを感じました。とても素敵な活動だと思いました。2 つ目の報告では、先生の行動力に感動しました。先生が担任だったら楽しかっただろうなと思いました。意見交換会では様々な意見が出て、色々と考えさせられました。今後の社会人権教育に活かして行きたいと思いました。ありがとうございました。

・フロアから活発な意見が出て「互いに学び合う」研修になったと思います。普段の研修では聞けない差別体験を聞かせていただき、「差別は本当は身近にある。それに気付くかどうかはその人の人権意識による」と感じました。自分を見つめ、語ってくださったみなさんに感謝いたします。
・ふれあい食堂みかづき
過疎化はどこも抱えている課題である。湯浅さんの言葉で，就職などで都会に出る子どもたちに，ふるさと，帰る場所を残したいみたいな事話された時に，過疎化ににになっている親が誰しも思う気持ちと同じだと感じ，心に刺さりました。これからのみかづきを応援したい気持ちになりました。
また，神田さんの公演は説得力があり私も、こんな先生に出会いたかったです。自分の子どもが色々あって，学校に行けなくなった時に，学校の先生は他人事のように言われ，被害者よりも，加害者が可哀想な家庭だからという方で，被害者に寄り添ってもらえなったという思いがあります。それから，先生たちにはいい思いがありません。もっと，自分事のように関わって欲しかったです。神田先生にほんとに出会えた子ども達は幸運です。ありがとうございました。
・この講座は、オンラインではなく対面で実施することに意味があると強く実感しました。被差別体験を生の声で聞くこと、感じること、そして、差別問題と自分自身の人生、生き方を語る生の声、そこにそれぞれの命の息遣い、命の思いを感じました。自分自身はどうなのか、自分で問いました。感謝です。
△実践発表の場ということで、部落差別についての質疑をされる方がいた。この発表までに一生懸命準備をされた発表者が、部落差別は知らないと回答したことに対して、今回が同和教育の講座だから、ちゃんと考えるべきだと厳しい意見をされていた。質問者が言われることは最もだと思う半面、このようなことになるのであれば、発表者にはある程度そういう質問が来るから想定しておいて下さい、であったり、同和教育の話が入っていない発表内容なのであれば、事前にアドバイスをするなど、今後主催者側できちんと検討いただきたい。

〇上記以外（　　）

・色々貴重なお話聞けてとても勉強になりました。